

社会福祉法人における地域貢献に向けた「1法人(施設)1実践」活動事例集

# 地域社会とともに歩む 社会福祉法人をめざして

平成23年9月

# はじめに

現在、わが国では、税・社会保障の一体改革をはじめ、規制改革、地域主権改革など、社会、経済全般にわたる改革が進められています。その中では、社会福祉法人の存在意義について議論される場面が増えてきました。それとともに国民からは社会福祉法人に対し厳しい目が向けられるようになっていきます。

このような時代において、社会福祉法人が広く国民にその役割、存在意義を認められるためには、社会福祉サービスの提供だけでなく、地域の実情に根ざした活動に取り組んでいく必要があります。地域に潜在しているニーズはさまざまであり、それらに対して、社会福祉法人が積極的に応え、地域の方々からの理解や信頼を獲得することが求められています。

本会では、社会福祉法人の使命である「地域社会における福祉の推進」の一環として、公益的な取り組みに対する会員法人における理解と実践を進め、社会福祉法人の存在意義について広く理解を得ることを目的に「1法人（施設）1実践」事業を提唱、推進しています。平成16年度から会員法人による地域に向けた公益的取り組み事例を募集し事例集を作成してまいりました。本冊子はその7冊目の事例集となります。

本事例集が「地域社会における福祉の推進」に向けた取り組みの参考として、また、これらの取り組みが社会福祉法人に対する地域の方々からの理解を促進する一助となるようご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、事例集の作成にあたりご協力いただきました会員法人のみなさまに心よりお礼申し上げます。

平成23年9月

全国社会福祉施設経営者協議会 会長 高岡 國士

# CONTENTS

## 1. 「地域に視点をあてた事業展開」

1. 幕別真幸協会（北海道）…………… 6  
地域社会との協働・貢献・還元事業の「見える化」をめざす幕別真幸協会
2. キングスガーデン宮城（宮城県）…………… 8  
キンダークラブ
3. 中心会（神奈川県）…………… 10  
高齢者を地域で見守るための第一歩～サロン立ち上げ後の潜在的な利用者を探る活動から～
4. 中心会（神奈川県）…………… 12  
社会的養護のノウハウを活かした地域の親子サロン及び里親サロンの開催
5. 中心会（神奈川県）…………… 14  
地域住民を対象にしたスペースの提供～地域交流室の貸し出し事業～
6. 正和会（奈良県）…………… 16  
地域社会への貢献事業～団塊世代の生きがい活動支援「未来塾」について～
7. 豊年福祉会（大阪府）…………… 18  
軽費老人ホームでの「年齢の制限を設けない集いの場－抛り所・居場所」の開発について
8. 鳥取福祉会（鳥取県）…………… 20  
地域のみなさまの健康づくりとふれあいを目的に「第1回鳥取福祉会健康ウォーク」開催
9. こうほうえん（鳥取県）…………… 22  
行事活動を通しての地域との連携
10. こうほうえん（鳥取県）…………… 24  
なんぶ幸朋苑における予防リハビリの現状と今後

## 2. 「地域における福祉の推進」

11. 永寿荘（埼玉県）…………… 28  
おうぎの森のだいどころ ごはんの先生は今日もゆく！
12. ダビデ会 昭島ナオミ保育園（東京都）…………… 30  
地域における養育力向上を目指して
13. 中心会（神奈川県）…………… 32  
食事を通じて、職員の専門的知識、スキルを地域住民に開放し、役立てる。
14. 南山城学園（京都府）…………… 34  
小規模事業所に対する支援～介護福祉士国家試験受験対策講座～
15. 寿楽福祉会（大阪府）…………… 36  
絵冊子「ひいじいちゃんはビールづくりのかみさま」～発行を通じた福祉教育教材の提供活動～

16. 鳥取福社会（鳥取県）	38
地域の活力と健康づくりを目指す「健康くらぶ」	
17. こうほうえん（鳥取県）	40
機関紙を通じた情報発信と地域ニーズの掘り起こし	
18. こうほうえん（鳥取県）	42
地域の中でできること～地域の中の施設として共生に向けた取り組み～	

### 3. 「地域と他機関とのネットワーク活動」

19. 溪仁会（北海道）	46
特定地域における通所サービス事業所及び従業者間のネットワーク構築と組織化への取り組み	
20. 芳香会（茨城県）	48
「Community, communication, contribution」地域の方と会話・コミュニケーションをとり、地域に貢献する「3C活動」	
21. 正和会（奈良県）	50
ご利用者と地域住民の安心安全を願って～地元自治連合会と「災害時における協力体制の協定書」を締結～	
22. 不動産会（広島県）	52
高齢者の暮らしを守る「食と見守りネットワーク」の実践～公と民の共同で地域の福祉力を高める～	

### 4. 「地域機能の縮小への対応」

23. 溪仁会（北海道）	56
地域貢献及び地域交流を積極的に図る	
24. 熊谷福社会（埼玉県）	58
天然温泉を活用した足湯処（アンテナショップ）の運営	
25. 済生会支部兵庫県済生会（兵庫県）	60
なでしこ暮楽部 有野大（高齢者等相談等事業）	
● 「『地域に向けた公益的取り組み』事例」応募要領	63



# 地域に視点をあてた 事業展開

# 地域社会との協働・貢献・還元事業の「見える化」をめざす幕別真幸協会

**取り組み内容のポイント** 当法人では質の高いサービスの提供はもとより、存在感を示すため平成18年度より地域における福祉ニーズに対応するため「地域との協働・貢献・還元事業」を推進し、一方で地域の血流として「ひらく・むすぶ・つなぐ」をキーワードに、その存在意義を主張している。

北海道

社会福祉法人

幕別真幸協会

〒089-0571 北海道中川郡幕別町字依田379番地

TEL：0155-56-4706 FAX：0155-56-5680

## ❖法人設立年

昭和53年

## ❖法人実施事業

- ①経営施設数合計：1施設、5事業  
②経営施設・事業【種別毎の数】：  
特別養護老人ホーム…1、短期入所…1、通所介護…1、訪問入浴…1、居宅介護支援…1、グループホーム…1

## ❖法人の理念・経営方針

「信頼」「自立」「貢献」を礎に、一人ひとりを大切に、真心のこもったおもてなしで21世紀に生きる法人を求め続けます。

1. 地域から信頼され愛される法人
2. ご利用者の満足を求める法人
3. 人と人とのふれ愛を求める法人
4. 生活利便の確信が得られる法人
5. 職員とご利用者が夢見る法人

## ❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無：記載している  
②事業報告・計画への記載：記載している

## ❖取り組みを実施している施設の概要

- 【施設名】：特別養護老人ホーム札内寮  
【施設種別】：特別養護老人ホーム（定員120名）  
【施設名】：札内寮デイサービスセンター  
【施設種別】：デイサービスセンター（定員30名）  
【施設名】：幕別町在宅介護支援センター（札内）  
【施設種別】：在宅介護支援センター  
【施設名】：グループホームくつろぎの家  
【施設種別】：グループホーム（定員8名）

## ❖活動内容

- ◇活動開始年：平成18年4月  
◇活動の対象者：  
地域の高齢者、住民、幼児・児童・生徒、利用者家族  
◇活動の頻度・時間：  
事業により違いはあるが毎日（要請等に応える）

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

平成13（2001）年以降、構造改革がすすめられ、社会福祉法人に限らず他の非営利法人や株式会社など営利法人も参入できるようになった。しかし、社会福祉法人が「社会福祉事業の主たる担い手」としての位置づけに変わりはない。また、新たに参入した営利法人などからイコールフットイングが主張されるが、法人制度のあり方や制度が求める本来的な役割は異なるとの認識の下、地域における福祉ニーズに柔軟かつきめ細やかに応えられるサービス供給主体として、差別化を図る事業展開を実践しようとの思いが強く現在各種事業を実施中である。

## ◆実施内容

別表の「地域社会との協働・貢献・還元（3K）事業概念図」が示すように、当法人は地域に向かって上からは「協働・貢献・還元」、下からは「ひらく・むすぶ・つなぐ」というように、点と点を結び線となり、線と線をつないで地域全体を「面」として捉えた事業内容としている。

字数の都合上、事業名および詳しい内容は省略するが、①「協働とひらく」では6事業、②「貢献とむすぶ」では7事業、③「還元とつなぐ」では7事業を実施している。

①の「協働とひらく」の目的は、組織とメンバー、スタッフが協力して組織目標を達成する力の醸成、②の「貢献とむすぶ」、③の「還元とつなぐ」の目標は、地域福祉の向上に貢献・還元することを目指している。一例をあげれば、地域貢献事業の一つとして「防犯に関する協定書」を幕別町と締結し、デイサービスやショートステイ利用者の送迎時、通院送迎などを利用して地域の防犯活動に従事している。送迎車両に「防犯ステッカー」を貼ることで、運行中に不審者などを見掛けたら「すぐ帯広警察署へ通報する」など関係機関との協力連携を訴えることで、不審者を「はびこらせない」といった「地域防犯」に役立てることができている。また、その後、「青色回転灯を装着してパトロールをおこなってみてはどうか」との意見もあり、帯広警察署と協議を重ねた結

果、北海道警察釧路方面本部長より「自主防犯パトロールを実施することができる団体」の証明書が交付され、法人が所有する9台の車両での実施が許可された。犯罪や空き巣、不審者の児童への誘惑などは、午後2～6時頃が多いという統計もあり、デイサービスの送迎時と一致する場合もあるため「防犯パトロール隊」は地域犯罪を未然に防ぐなどの、抑止力効果は大きいものと評価されている。

社会福祉法人の使命や理念は形式的に定款に定められているが、より具体的には社会福祉法人の経営者の胸の内に秘められていることが少なくない。このため、法人経営とは使命や理念を具体的に展開・実践することであり、そのためには自らの使命や理念を、地域や利用者、家族に対し、また職員に対し、具体的に明らかにすることが大切であるとの考えと、「継続は力なり」の信念の下、事業を展開している。

### ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

まだまだ緒に就いたばかりであるが、地域社会との協働・貢献・還元20事業に対する評価は、概ね地域密着型事業として評価されている。引き続き、得られた利益は社会福祉法人の使命や理念に照らし、サービス向上や人材育成に充てるなど社会福祉事業の実践、さらには地域の福祉ニーズにこたえていくことなどの効果が期待できる。また費用対効果で考えると、当法人の理念「信頼・自立・貢献」に向けた達成度は120%以上になると検証している。

具体的には、①地道によりよいサービスを追求める姿勢の醸成、②利用者が評価されるサービス内容、サービスの質の確保に繋がること、③施設、法人に対する地域社会の認知度の向上、④職員にとって魅力ある職場づくりと研修の場づくり、⑤地域社会との共生確立、⑥職員への動機づけ、⑦行政や関係団体との信頼関係の構築など活動効果は計り知れないものがある。

## ◆今後の展開

社会的弱者の生活を支えるとともに、地域住民の福祉を向上させることが、社会福祉法人の使命、役割でもある。法人経営とは、経営の手法をもって組織の発展的な継続を図り、使命や理念を具体的に実践することを念頭に事業展開する。また、経営協が考える「法人の地域化」に向けては、これまでの実践事例集の中からピックアップしたものを全国一斉に取り組む姿勢、体制づくりができることを夢見るものである。

## ◆主な経費や財源及び人員等

「ハードはカネ、ソフトはチエ」、二宮尊徳「入るを量り、出を制す」の考えの下、地域社会との協働・貢献・還元20事業（平成23年8月現在）にかかる費用は総額で年間400万円前後である。

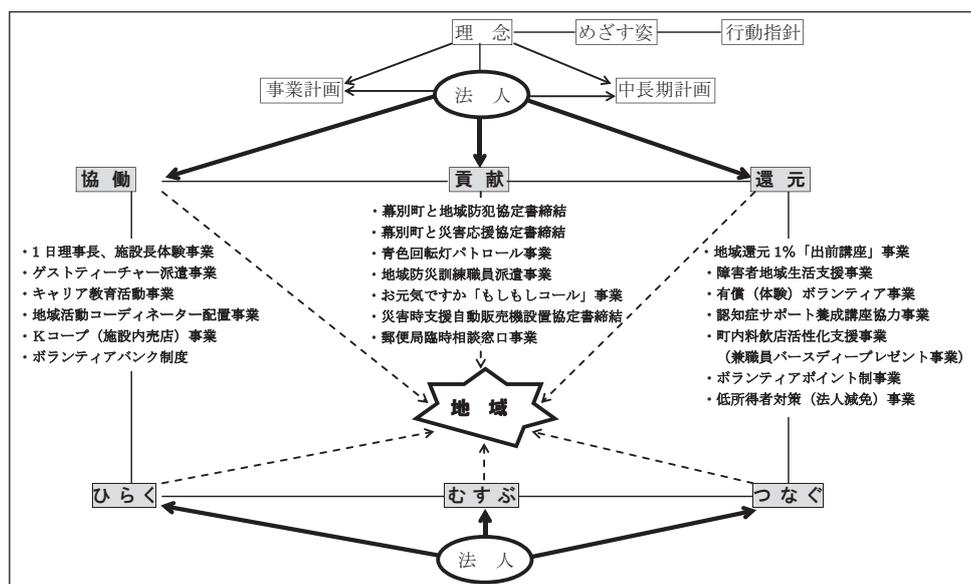
主な内訳

- ①障害者地域生活支援事業（40万円）
- ②有償（体験）ボランティア事業（30万円）
- ③町内料飲店活性化（兼職員バースディープレゼント）事業（60万円）
- ④ボランティアバンクポイント事業（10万円）
- ⑤法人減免事業（500万円×1/2=250万円）  
このほか当初費用として
- ⑥青色回転灯（10万円）
- ⑦出前講座（30万円）

・取り組みに係わった職員数 120名  
（職種：介護・看護・事務・ケアマネ等）

※法人全体の事業規模

（平成22年度決算の事業活動収入） 722,945千円



地域との協働・貢献・還元（3K）事業概念図

# キンダークラブ

## 取り組み内容のポイント

親子とのふれあい、子どもたち同士・親同士のふれあい、施設利用者とのふれあい。

宮城県

社会福祉法人

キングスガーデン宮城

〒988-0085 宮城県気仙沼市三日町3-1-1

TEL: 0226-24-3001 FAX: 0226-24-3153

### 法人設立年

平成7年

### 法人実施事業

- ①経営施設数合計：2施設  
 ②経営施設・事業【種別毎の数】：  
 特別養護老人ホーム…1、ケアハウス…1、グループホーム…1、訪問看護…1、通所介護…4、訪問介護…2、訪問入浴…1、居宅介護支援…1、就労継続支援…1

### 法人の理念・経営方針

#### ●法人の理念

1. 私たちは、利用者の意向を尊重し、その権利を擁護する。
2. 私たちは、利用者へ満足と安心と快適さを提供する。
3. 私たちは、心地よいサービス環境を創意工夫する。
4. 私たちは、夢と希望のある職場をつくる。
5. 私たちは、日々、真摯に対応する。  
 私たちの表情、動作、言葉こそ、最大のホスピタリティと考える。  
 「愛の心を持ち、喜びに充ちあふれ、平和の想いを有し、人々への寛容を示し、弱い人に対する慈愛（親切）の心を持ち、善意を持って小事にあたり、忠実（誠実）に職務をこなし、柔和さをもって地域社会に向かい、辛さに対しては自制心を発揮する」
6. 私たちは、地域社会において、利便性のある保健医療福祉サービスを展開する。

#### ●法人の基本方針

1. 使い勝手のある、トータルケア・システムを目指す。
2. 複数代替案を発想する柔軟性と、最善と判断した計画を実行する迅速的機動性を発揮する。
3. 馴染みの地域文化や生活文化（食習慣等）を重んじ、次世代へと生活遺産を継承する。
4. 優しさと倫理性、協調性を備えた人材を育て、社会福祉従事者の育成、生涯学習ボランティア育成に貢献する。
5. 情報通信技術の活用による省力化とサービス利用の公正性・効率性を追究する。
6. 評価システムを活用し、利用者からの信頼と提供サービスの質を向上する。

### 取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無：記載していない  
 ②事業報告・計画への記載：記載している

### 取り組みを実施している施設の概要

【施設名】特別養護老人ホーム キングス・タウン  
 【施設種別及び利用定員】70名（内ショート20名）

### 活動内容

- ◇活動開始年：平成18年9月  
 ◇活動の対象者：就園前の乳幼児と保護者  
 ◇活動の頻度・時間：月2回 2時間

## 活動実施の背景、実施にいたった理由

特別養護老人ホームキングス・タウンが気仙沼市中心市街地活性化事業として建設され、地域への貢献が期待されており、施設内地域交流スペースを利用した事業の展開として、キンダークラブを始めた。当時、産休・育休の職員や転勤により気仙沼に居住する若い世帯から、気仙沼には“公園デビュー”するような場所もなく子育ての中での不安解消できる空間がほしい、との声があり、法人として場所の提供とできるサービスを行おうと保育士の資格をもつ職員や職員家族らと始めた。

## 実施内容

月齢によってもさまざまだが、2時間のうち、前半は保育士がリードした遊び、後半は自由遊びとしている。

まず来たら、出席確認カードを提示してシールを貼る。みなさんがだいたい集まったところで、挨拶、開始する。手遊び、本の読み聞かせ、リズム体操。その後、季節感を取り入れ、身近なものでできる工作やゲームを設定して、親子で参加できる時間としている。

休憩タイム（ジュース）の後、後半は自由遊びとなる。施設の広いスペースを走り回ったり、おもちゃ、ボール遊びをしたり、自由に遊んでいる。天気の良い時は、中庭に出て、日光浴をすることもある。親御さんは子どもの様子を見守りながら、親同士交流している。

年に2回、施設外活動で遠足に行ったり、クリスマス会、お別れ会と季節行事を入れている。

## 活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

開始当初は、市の広報を活用して住民へ周知を行っていたが、次第に参加者による口コミが広がり、現在では、毎回20組ほどの親子が活動に参加している。

施設内のデイサービスセンターと、特別養護老人ホームとの交流で、行事の時に来てくれる人形劇（ボランティア）と一緒に観覧して楽しんだり、普段開所しているときに様子を

見に来てもらうほかに、敬老の日には、キンダークラブからお祝いに訪問したりと、高齢者が子どもたちと触れ合う様子には、みな笑顔が見られる。

利用している親御さんは、子どもの成長を見ながら日々出る不安を話したり、さまざまな情報を相互に交換している。また、ここから互いに連絡先を交換し合ったり、キンダークラブ以外での交流につながっている方たちもいる。

キンダークラブは親御さんの口コミや兄弟での利用もあって続いている。

## ◆今後の展開

震災前にもう1箇所を開所する予定であったが被災により、事業が出来なくなった。また機会があれば、別の場所での展開したい。

工作の講師を呼んでのイベントや親子交流を兼ねたイベントの実施を考えている。

## ◆主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
おやつ代 (毎回飲物代)	24,000円	参加費(施設外活動、 行事のときだけ)	500×35 17,500円
工作代他	10,000円		円
<合計>	34,000円	<合計>	17,500円

- ・ 取り組みに係わった職員数 15名  
(職種等: 相談員 介護職員 事務員 ケースワーカー 厨房職員)
  - ・ 取り組みを実施している施設の事業規模  
(平成22年度決算の事業活動収入) 226,371千円
- ※法人全体の事業規模(同上) 759,063千円



節分



敬老の日



遠足

# 高齢者を地域で見守るための第一歩 ～サロン立ち上げ後の潜在的な利用者を探る活動から～

## 取り組み内容のポイント

- ・高齢者の交流の場に参加して欲しい、潜在的な高齢者を探る。
- ・地域包括支援センターを知ってもらい、地域の相談窓口として、相談しやすい関係作りをする。

神奈川県 社会福祉法人

中心会

〒243-0431 神奈川県海老名市上今泉4-8-28  
TEL: 046-231-5888 FAX: 046-231-6396

## ◆法人設立年

昭和28年

## ◆法人実施事業

- ①経営施設数合計：5施設
- ②経営施設・事業【種別毎の数】：  
特別養護老人ホーム…4、訪問介護…1、短期入所…3、通所介護…3、養護老人ホーム…1、養護短期入所…1、訪問入浴…1、居宅介護支援…2、地域包括…2、児童養護…1

## ◆法人の理念・経営方針

私たちは、私たちが活動する地域社会において、自分や自分の大切な人が抱える心身の障害や生活環境上の問題によって、様々な『不自由』『生きにくさ』を現に経験し、または経験するだろうリスクを有する人々に対して、適切な専門性の担保された養護、介護、及びこれに関連する諸サービスを提供することを通じて、誰もが自分の存在に誇りを持ち、生きる喜びを享受するとともに、自分の家族や隣人の存在を素直に喜ぶことができる社会づくりに貢献します。

## ◆取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無：記載していない
- ②事業報告・計画への記載：記載している

## ◆取り組みを実施している施設の概要

【施設名】海老名北地域包括支援センター  
【施設種別及び利用定員】 地域包括支援センター

## ◆活動内容

- ◇活動開始年：平成22年4月
- ◇活動の対象者：地域の高齢者
- ◇活動の頻度・時間：  
個別訪問（281世帯）月30件、1人あたり月10件

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

二次予防事業修了者の交流の場として立ち上げた「和（なごみ）倶楽部」「縁（ゆかり）倶楽部」を実施していく中で、潜在的な対象者がいるはずだという思いがあった。そこで、地域の高齢者の現状把握をする為に独居・高齢者世帯を対象に戸別訪問を行った。単に訪問するだけでなく、地域包括支援センターの周知度を計り、相談しやすい関係作りをしたいと考えた。

## ◆実施内容

地域包括支援センターのPRとして、一部地区の高齢者独居・高齢者世帯の戸別訪問を行い、現状把握と周知度を調べた。

地域包括支援センターにあるケースファイル情報と、民生委員が把握している情報から281件を選定。包括職員3名（1人あたり月10件）が9ヶ月かけて訪問した。突然の来訪者を不審に思うことを予想し、地域に顔が広い民生委員と一緒に訪問した。訪問時、地域包括支援センターの活動内容と、担当職員の写真つき自己PRを載せたチラシを配布した。

また、「和（なごみ）倶楽部」「縁（ゆかり）倶楽部」の紹介を行い、参加を促した。

## ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

予想通り周知度は37%と低かったが、訪問を繰り返すことで86%まで上がった。繰り返し訪問したにもかかわらず、訪問したことを覚えていない方や、明らかに何らかのサービスの必要性があるが利用をしていない方などフォローが必要な方が1.7%おり、見守り訪問を行っている。訪問したことにより何らかの相談に繋がったケースが全体の8%あり、地域の相談窓口としての役割が確立しつつある。〈表〉

民生委員との訪問により、地域の特性や近所の様子などの情報を得ることができ、地域全体を把握することができた。民生委員も知らなかったケースもあり、民生委員からも「またやって欲しい」という声が上がった。何より民生委員と共

同作業したことにより信頼関係が生まれ、協力体制が整った。

## ◆今後の展開

今回行った戸別訪問は担当地区の一部であり、今後は全地区を対象に行う予定である。地域の高齢者の現状把握の後、見守り体制の構築へと移行していく為、商店や病院など住民の利用頻度の高い機関への関係作りを行う予定である。東日本大震災後、地域のつながりや絆の大切さが見直されている。災害に強い地域、子供から高齢者まで見守り体制の整った地域を目指して、活動を広げていきたい。

## ◆主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数 3名  
(職種等：主任ケアマネジャー・保健師・社会福祉士)
- ・取り組みを実施している施設の事業規模  
(平成22年度決算の事業活動収入) 543,508千円  
※法人全体の事業規模(同上) 1,867,384千円

**海老名北地域包括支援センター**

「地域包括支援センターって何？」  
海老名市内に8箇所設置され、地域の高齢者又はそのご家族の方の相談をお伺いしております。  
私達の担当地域は 上今泉・下今泉・上郷 です。

「どんなことをしているの？」

- ①介護予防に関するお手伝い
  - ・介護保険を使いたい。(介護保険の申請)
  - ・足腰が弱くならないように、予防したい
  - ・要支援1、2の方の担当 など
- ②色々な相談
  - ・入所する施設を探したい。
  - ・介護保険のお金がかさみ、生活が困難である。
  - ・近所に住む一人暮らしの高齢者が心配 など
- ③権利を守る
  - ・お金の管理が1人では不安
  - ・訪問販売の被害の防止
  - ・虐待の防止や早期発見 など
- ④包括的・継続的なお手伝い
  - ・暮らしやすい地域づくりのために、医療機関や行政、その他の機関との連携作り
  - ・ケアマネジャーへの支援 など

「どんな人がやっている？」  
保健師・社会福祉士・主任ケアマネジャーの3名体制で行っております。  
それぞれの専門分野を持っている職員が連携してご相談をお伺います。

「その他にも・・・サロンを開いています！」  
まだまだ介護は必要ないけれど、家にいることが多い友達の家に出かけることが少ないなど、外出の機会が少ない方が参加できるような倶楽部を開いています。  
「和(なごみ)」・・・上今泉地区、「縁(ゆかり)」・・・下今泉・上郷地区  
2ヶ所で手袋をしり編み物をしたり、お喋りしながら楽しくやっておりますので、お気軽にご連絡下さい。

海老名北地域包括支援センター  
(えびな北高齢者施設内)  
046(231)6061  
内田・大池・川村 まで

地域包括支援センターの業務内容紹介(表)

**自己紹介**  
～プロフィール第二弾～

PR前半では、「ついでに教えて」「ちょっと困っていた」と気軽に相談して下さる方が約一割いらっしゃいました。介護、健康、食事、通院と困りごとの内容は様々でした。  
中には、私たちの訪問がきっかけとなり、海老名北のボランティアに来て下さる方も！(ほんと、ありがたいことです。)

**大池 恵美子 (主任ケアマネジャー)**

この写真を見て「実物の方がいいわ～」と  
言っただけの方のお声を素直に取り、少々  
いい気になっています。

好きな食べ物：そば(細い方が好き)、ふぐ  
好きな言葉：七転び八起き(立ち直りが早い!)

**内田 みどり (保健師)**

3人の中で、唯一 髪の毛が短い私。  
外見だけでも、もうちょっと女らしく  
なりたくて、髪を伸ばそうと思っています。

好きな食べ物：ピーマン(大嫌いでしたが、最近  
食べられるようになり、好物に\*)  
好きな動物：犬(ゴキブリ/シロアリを倒してました)  
好きな色：オレンジ

**川村 由香 (社会福祉士)**

いろいろな方に PR チラシを読んでもらって  
いるようで嬉しいかぎりです。  
少しでも地域包括支援センターを皆様  
の身近に感じていただければと思います(´▽`)

好きな食べ物：らーめん(特に味噌)、お寿司  
好きな動物：ネコ(飼いたい...)  
好きな色：赤

地域包括支援センターの職員の紹介(裏)

周知度					
総数		包括の存在			
独居	高齢者世帯	1回目		2回目	
	281	○	103	37 %	
134	147	×	178	63 %	
	計 281			○ 140	86 %
				×	36 20 %
				計 176	99 %
				* 訪問拒否2件	

注)2回目の○の%=  
 $\frac{1回目の○+2回目の○}{1回目の訪問件数}$

表 1回目の訪問で包括を知らなかった方へ2回目の訪問を行って周知度を上げた

相談に繋がったケース		
世帯種別	内容	
1 独居	えびな北のボランティアにつながる。	
2 高齢者世帯	妻から、介保の相談。	
3 高齢者世帯	社協の送迎ボラの相談。	
4 独居	緊通の相談。	
5 高齢者世帯	配食の相談。(妻が入院した為)	
6 独居	介保認定についての相談。	
7 高齢者世帯	友人の介保認定についての相談。	
8 高齢者世帯	妻の健康相談。	
9 高齢者世帯	チラシを見てTELくれる。介保申請に結びつく。	
10 独居	来荘し、傾聴ボラを申し込む。	
11 高齢者世帯	介保申請。	
12 高齢者世帯	介保申請。	
13 独居	緊通の相談。	
14 高齢者世帯	健康に関する相談。	
15 独居	ヘルパーについての相談。	
16 高齢者世帯	夫についての相談。	
17 高齢者世帯	介保の相談。	
18 独居	介保の相談。	
19 独居	病気に関する相談。	
20 独居	退院後の相談。	
21 独居	緊通の相談。	
22 独居	後日、民生委員が訪問し認知症の疑惑あり。	
23 高齢者世帯	後日、オレオレ詐欺の報告をしてくれた。	

訪問によって相談に繋がったそれぞれの相談内容

# 社会的養護のノウハウを活かした地域の親子サロン 及び里親サロンの開催

## 取り組み内容のポイント

サロンに参加するお母さんにアンケートを取りながら、誰でも気軽に、楽しく過ごせるサロンを目指している。

神奈川県 社会福祉法人

中心会

〒252-0244 神奈川県相模原市中央区田名10125  
TEL：042-764-7046 FAX：042-764-7048

### ◆法人設立年

昭和28年

### ◆法人実施事業

- ①経営施設数合計：5施設
- ②経営施設・事業【種別毎の数】：  
特別養護老人ホーム…4、訪問介護…1、短期入所…3、通所介護…3、養護老人ホーム…1、養護短期入所…1、訪問入浴…1、居宅介護支援…2、地域包括…2、児童養護…1

### ◆法人の理念・経営方針

私たちは、私たちが活動する地域社会において、自分や自分の大切な人が抱える心身の障害や生活環境上の問題によって、様々な「不自由」「生きにくさ」を現に経験し、また、経験するだろうリスクを有する人々に対して、適切な専門性の担保された養護、介護、及びこれに関連する諸サービスを提供することを通じて、誰もが自分の存在に誇りを持ち、生きる喜びを享受するとともに、自分の家族や隣人の存在を素直に喜ぶことができる社会づくりに貢献します。

### ◆取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無：記載していない
- ②事業報告・計画への記載：記載している

### ◆取り組みを実施している施設の概要

【施設名】中心子どもの家  
【施設種別及び利用定員】児童養護施設 50名

### ◆活動内容

- ◇活動開始年：平成18年1月
- ◇活動の対象者：地域住民、乳幼児、小学生他
- ◇活動の頻度・時間：
  - ・サロンは毎月2回10時～15時（昼食持参でサロン後もおしゃべりしながら楽しく過ごしている）
  - ・施設は365日開放しており、事前に連絡をいただければ自由に活動の場として提供している。

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

児童養護施設の入所児童の7割近くが保護者からの虐待を受けてきたという現状の中で、当施設で培ってきたノウハウが地域に還元できないかと考え、子育て講座、育児相談、ショートステイ等の子育て支援をこれまでも実施してきた。「地域社会に根を張り、地域社会を育てるとともに、地域社会に支えられる」という法人の信念もあり、当施設が相模原市において、子育て中の母親、父親が何か困ったことがあったら、気軽に相談できるような地域に根差した存在でありたいと考えている。

## ◆実施内容

月2回、地域の子育て中の親子の交流の場、憩いの場として、施設内のコミュニティホールにおいて毎回8組から15組の親子が参加してワイワイと楽しく活動している。内容は、近隣保育園の先生の指導によるリズム遊びや、市内の読み聞かせサークルによる人形劇、英語遊び、布おもちゃ、制作活動など様々で、保育士以外に里親、ボランティアの方々の協力を得て行っている。今年の夏は、母親からの要望で、屋上プールを開放し、9組の親子が参加し、とても喜んでいただいた。また、サロン以外にも、ベテラン保育士による子育て相談、公民館へ出向き、「よろず子育て相談」を実施予定である。

施設は近隣の子どもたちにも活動の場所として提供しており、今までも、映画鑑賞会やクリスマス会など、子ども会の行事や学校の謝恩会の会場として施設を提供している。また、当施設は里親会事務局として里親支援も行っている。里親相互の連絡窓口として、活動の拠点や研修の企画、里親の啓発・啓蒙活動や相談窓口にもなっている。今年度は、新たに、里親サロン「あじさいカフェ」をオープンした。里親同士が楽しくおしゃべりをしながら、情報交換の場として利用していただくことを目的としている。9月には、講師の先生を招いて「木の手作りネックレス」制作を企画している。



親子サロン「おもちゃばこ」



今日は何をするのかな？



布おもちゃで遊ぼう

援にも努めていきたい。

乳幼児も気軽に参加できるようにキッズコーナーの設置、授乳時に必要なパーテーションや、おむつ交換台も設置し、乳児のいるお母さんも安心して参加できるよう設備を整えていく予定。

また、里親支援では、市内唯一の里親支援機関として、里親啓発から養成と里親からも信頼される機関としてさらなる充実を図っていきたい。



お母さんと一緒に……

### ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

親子サロンでは、毎回、参加者にアンケートを実施して、親子の要望、困った事等を受け、次回のサロン活動に活かし、親子が気軽に参加できる心地良いサロン作りを行い、母親同士の口コミによる参加者が増えている。サロン後に、施設内の和室を開放して昼食を食べながら楽しく過ごしている。アンケートには、「お昼を皆で食べる場所があって助かる」「遠慮なく参加できる」といった声も聞かれ、サロン後もゆっくりと過ごしている母親が増えている。また、サロン以外にも、雨の日に室内の遊び場を提供したりと、普段の日より施設の開放を行っている。

### ◆今後の展開

現在活動している場所を地域の親子サークルなどにも開放し、施設を拠点にした地域の親子の関わりを通して、相談事業など子育て中の親子の支

### ◆主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
消耗品費	4,000円	地区社協助成金	20,000円
印刷費	4,000円	法人負担金	5,000円
材料費	6,000円		円
楽器・図書	9,000円		円
お茶代	2,000円		円
<合計>	25,000円	<合計>	25,000円

- ・取り組みに係わった職員数 3名  
(職種等：保育士)
  - ・取り組みを実施している施設の事業規模  
(平成22年度決算の事業活動収入) 205,704千円
- ※法人全体の事業規模(同上) 1,867,384千円

# 地域住民を対象にしたスペースの提供 ～地域交流室の貸し出し事業～

## 取り組み内容のポイント

- ・地域住民に施設の資源のひとつである「場所」を提供する。
- ・貸し出しにより地域住民に福祉施設を身近に感じてもらい、施設のサポーターになっていただく。

神奈川県 社会福祉法人

中心会

〒243-0427 神奈川県海老名市杉久保南3-31-6  
TEL: 046-238-7681 FAX: 046-238-7682

## ❖法人設立年

昭和28年

## ❖法人実施事業

- ①経営施設数合計：5施設
- ②経営施設・事業【種別毎の数】：  
特別養護老人ホーム…4、訪問介護…1、短期入所…3、通所介護…3、養護老人ホーム…1、養護短期入所…1、訪問入浴…1、居宅介護支援…2、地域包括…2、児童養護…1

## ❖法人の理念・経営方針

私たちは、私たちが活動する地域社会において、自分や自分の大切な人が抱える心身の障害や生活環境上の問題によって、様々な『不自由』『生きにくさ』を現に経験し、または経験するだろうリスクを有する人々に対して、適切な専門性の担保された養護、介護、及びこれに関連する諸サービスを提供することを通じて、誰もが自分の存在に誇りを持ち、生きる喜びを享受するとともに、自分の家族や隣人の存在を素直に喜ぶことができる社会づくりに貢献します。

## ❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無：記載していない
- ②事業報告・計画への記載：記載している

## ❖取り組みを実施している施設の概要

【施設名】えびな南高齢者施設

【施設種別及び利用定員】

養護老人ホーム（50名）、特別養護老人ホーム（50名）他

## ❖活動内容

- ◇活動開始年：平成19年
- ◇活動の対象者：住民
- ◇活動の頻度・時間：  
・年間365日貸し出し可能  
・実績一月平均43件124時間

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

地域交流室は広さ145㎡。床はフローリングで舞台もあり、音響設備も充実している。主にボランティアが演奏などの活動を披露する場として使用していた。ある時「行事を実施したいのだが場所がない」といった切実な訴えが自治会から施設に寄せられた。自治会に地域交流室をお貸しすると、大変喜んでいただけた。この経験を活かし、自治会の会合に出向き、地域交流室をお貸しできることを積極的にPRした。また施設広報誌を通じ、さらに多くの住民にこの貸し出し事業をPRした。このような活動を行っていることは口コミでも広まり、多くの趣味のサークルやスポーツサークルなどが地域交流室を使用している。

## ◆実施内容

現在、登録している団体は18団体。登録人数は200名に近い。料金は徴収していない。登録団体は太極拳、ダンスレッスン、母子サークル、よさこい踊りなど多岐にわたっている。年代も子供から高齢者まで様々である。

利用に当たっては最初に団体登録をしていただき、ご利用の1ヶ月前から予約を受けている。当日は予約時間までに来ていただき、椅子・机・音響設備は自由に使用していただいている。地域交流室を使用したあとは、チェックリストに従い後片付けをしていただいている。

平均利用数は1日1.4件、連続3時間で利用する団体が多い。ほとんどの団体は定期的に月利用している。9時から21時を貸し出し時間としている。

## ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

現在、登録している団体は18団体。登録人数は200名に近い。料金は徴収していない。登録団体は太極拳、ダンスレッスン、母子サークル、よさこい踊りなど多岐にわたっている。年代も子供から高齢者まで様々である。

登録団体のひとつである社交ダンスサークル「夢ダンスクラブ」に地域交流室の使用について、インタビューをした。

施設「地域交流室の貸し出しは何で知りましたか」  
夢「他のサークルから教えてもらいました。今は平均月2回利用しています」

施設「ここを利用する理由を教えてください」  
夢「まず床のクッションがいいので、非常に踊りやすい。あと職員の対応が良い。最初は『趣味のサークルで使っているのだろうか』と小さくなっていましたが、職員さんがいつも笑顔で挨拶してくれるので、気持ちよく借りられる。いつかこの施設にお世話になるかもしれません」。

## ◆今後の展開

これからも地域住民に地域交流室の貸し出しをPRしていきたい。場所だけではなく、音響設備やプロジェクターが整っていること、またそれらの機器を利用し、DVD上映会やパソコンを使用した説明会などもできることを広報していきたい。また利用して下さっている地域住民の方々に施設の取り組みや内容をより知っていただくために、行事参加やボランティア活動の呼びかけや施設の資料を渡すなどして、より施設をサポートしていただくための活動を実施していきたい。

## ◆主な経費や財源及び人員等

- ・ 取り組みに係わった職員数 16名  
(職種等：管理職、生活相談員、介護支援専門員、地域包括支援センター職員、栄養士、事務員)
- ・ 取り組みを実施している施設の事業規模  
(平成22年度決算の事業活動収入) 570,168千円  
※法人全体の事業規模(同上) 1,867,384千円



地域交流室でダンスレッスンをを行う夢ダンスクラブ1



地域交流室でダンスレッスンをを行う夢ダンスクラブ2



地域交流室

# 地域社会への貢献事業 ～団塊世代の生きがい活動支援「未来塾」について～

## 取り組み内容のポイント

趣味の会（未来塾）の活動をとおして近隣にお住まいの団塊世代の方々の生きがい活動、ネットワーク作りの支援を行い、将来的にはボランティア指導者を育成、地域社会に貢献できればと考えている。

奈良県

社会福祉法人

正和会

〒637-0077 奈良県五條市大沢町5-25

TEL：0747-24-4455 FAX：0747-23-6226

### ❖法人設立年

平成5年

### ❖法人実施事業

①経営施設数合計：3施設

②経営施設・事業【種別毎の数】：

特別養護老人ホーム…1、通所介護…1、ケアハウス…1、認知症対応型通所介護…1、老人保健施設…1、通所リハビリテーション…1、訪問介護…1、居宅介護支援…2、認知症対応型共同生活介護…1

### ❖法人の理念・経営方針

理念…われわれ正和会は地域における最高の福祉の充実を目指し日々精進することを旨とする

方針…われわれ正和会は単なるサービス業として受け止めるのではなく福祉という崇高なる理念に基づき情報も含むあらゆるサービスの提供改善に努めます

### ❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

①定款記載の有無：記載していない

②事業報告・計画への記載：記載している

### ❖活動内容

◇活動開始年：平成21年12月

◇活動の対象者：

近隣にお住まいの団塊世代の方(概ね60才以上)

◇活動の頻度・時間：月12回 1回2時間

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

定年退職後の生活、子供の自立後の生活を早いうちから計画をたてて迎える人は、そう多くはない。のんびりと、そして生きがいある充実した毎日を過ごしたい人、地域に貢献したいと思いつつ何をしたらいいのかも解らないまま日々過ごしている方も多いと話を聞いている。また、高齢になるほど地域社会との接点も少なくなり、家に閉じこもりがちになる。これらは心身共に弱体化させ、ひいては認知症、要支援（介護）状態の引き金になることも懸念される。趣味活動は外出の機会を増やし、新しい仲間をつくることができ、はりのある毎日へと通じるが、「60の手習い」は費用がかかり、思うようにならないのが現実。法人は趣味活動の資金、指導者、場所の提供、「一度やってみたかった」ことをやれる環境づくり、長期的な視点から介護予防・生きがい支援と位置づけ、地域社会への貢献事業として実施することとなった。

## ◆実施内容

平成21年12月から絵手紙、苔玉・ミニ盆栽づくり、竹細工、陶芸の各コース共1ヵ月に2回程度開催 1回2時間で各コース10名程度を定員としている。参加対象者は近隣にお住まいの団塊世代の方を中心にし、参加費は無料、材料代は自己負担としている。平成22年6月からトールペイント、パソコン（ワード、エクセル）を追加、指導はボランティア、低額な謝金で依頼している指導者、当法人職員が行っている。作品作りに関しては「自画自賛」をモットーに、気楽な雰囲気活動し、その後はお茶とお菓子とおしゃべりで盛り上がるサロンのような場所としても楽しい時を過ごしている。また、多くの方に作品を見ていただき創作意欲を高める為、展示する機会があれば出展し、広報活動も同時に行っている。（法人行事「ボランティアの集い」「秋穫祭」「チャリティーイベント」と地元のイベント「まきまつ」で作品展示）

## ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

近隣にお住まいの方を対象に始めた事業であったが、回を重ねる毎に職員からも参加希望があり、現在は地域の方と職員が混合で活動しているコースもある。今まで福祉施設との関わりが全くなかった方が職員と交流することにより施設が身近に感じられ、又職員は今まで気付かなかった事を知り得ることができ良い機会となっている。又作品を展示する機会を設けることで制作意欲も向上し、なかには自宅で制作する方もおり力作がたくさんできている。5月の連休には7日間、東日本大震災の復興支援チャリティーイベントを開催、作品の展示即売会を行った。多くの方にご来場いただき、売上金12万円余りを義援金として被災地へ寄付した。このように当初は思いもよらぬことが展開し事業の本来の目的以外の効果も現れてきている。

## ◆今後の展開

当初13名だった参加者は現在38名。展示会などを行うことにより口コミで広がり少しずつ増えている。しかし男性は6名と女性に比べ圧倒的に少ない。農村地帯であり退職後は趣味と実益を兼ねた家庭菜園を楽しむ人が多いからか、また施設という場所は男性にとって馴染みが少ないからかもしれない。来年度は男性にも参加しやすいように事業内容の検討をしている。事業継続を今後の目

標とし、成果は未知数だが笑顔が集う交流の場所として地域住民に役立てていただきたいと考えている。

## ◆主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
備品(初年度のみ)	1,750,650円	特養会計から	1,750,650円
講師謝金	200,000円	法人本郡から	344,800円
光熱水費	94,800円		
消耗品費	50,000円		
<合計>	2,095,450円	<合計>	2,095,450円

- ・取り組みに係わった職員数 6名  
(職種等：管理者、総務部、事務員、介護職、運転手)
- ※法人全体の事業規模  
(平成22年度決算の事業活動収入) 1,638,184千円



東日本大震災復興支援チャリティー即売会



作品展示風景



絵手紙教室

# 軽費老人ホームでの「年齢の制限を設けない集いの場— 投げ所・居場所」の開発について

**取り組み内容のポイント** 軽費老人ホームの多目的ホールを使い、利用については制限を一切、設けない必ず何かをするという決め事はなく、集まり、語り合い、時には物を作り、一緒に歌い、遊びや趣味から繋がって、時間を共にし、血縁に限らない様々な『縁』を作っていく。

大阪府

社会福祉法人

豊年福祉会

〒576-0016 大阪府交野市星田8-6-7

TEL: 072-891-2029 FAX: 072-891-2093

## ◆法人設立年

昭和55年

## ◆法人実施事業

- ①経営施設数合計：11施設  
②経営施設・事業【種別毎の数】：  
特別養護老人ホーム…2、軽費老人ホーム…1、  
通所介護…3、訪問介護…1、居宅介護支援…  
1、在宅介護支援センター…2、障害福祉サー  
ビス（生活介護）…1、公益事業…1

## ◆法人の理念・経営方針

理念：「すべての人と共に健康で生きがいある安心した暮らしを」

基本方針：

- ・常に利用者の立場にたち、喜ばれるサービスをめざします。
- ・ソーシャルインクルージョンの理念に基づき、地域福祉の課題に取り組みます。
- ・研修などの充実を図り、利用者一人ひとりにあった専門的なサービスをめざします。
- ・みんなのために笑顔で接します。
- ・風通しのよい組織、働くことが楽しい職場づくりをめざします。

## ◆取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無：記載している  
②事業報告・計画への記載：記載している

## ◆取り組みを実施している施設の概要

【施設名】軽費老人ホーム明星

【施設種別及び利用定員】

軽費老人ホームA型 50名定員

## ◆活動内容

- ◇活動開始年：平成23年6月11日  
◇活動の対象者：地域の高齢者、小学生、住民  
◇活動の頻度・時間：  
今のところ数ヶ月に1度 3時間程度

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

年齢を問わず、地域の中には様々な福祉課題を持つ人がいる。家族がなく独り暮らしで普段殆ど誰とも交流のない人、近所や地域のいろいろな人の中で話すことに気おくれしたり、ためらったりする人、孤立や排除されてしまいそうになっている人がいる。それらの人々が孤独や寂しさや焦りや戸惑いや悲しさをやわらげることができ、伸び伸びと安心して自分でいられるような場所—『投げ所・居場所』があれば、と考えた。

当法人には『軽費老人ホーム明星』がある。年齢も状況も様々な人が持てる力を発揮し一つ屋根の下で暮らしている。創設当初から理念として地域に開放された施設を目指し、具体的な取り組みを行ってきた。心身機能の低下を伴う高齢期のステージにあって、養われる支えあいは、幅広く他者を受け入れるソーシャルワークの実践の場となっている。その懐の深さと『居場所づくり』を融合させたいと考えた。老若男女問わず、仕事に就いている人いない人、幼児も中学生も、幅広い年代の人が集まり、そこに軽費老人ホームの入居者も交流し、気楽に集えて交流する場所であることを目指したい。

## ◆実施内容

平成23年6月11日に初めての集まりを行った。計大人8名（地域住民であるも保健師、社会福祉士として就労している人が数名いる）、小学生3名 保育園児1名 12名。

【行った内容】自己紹介、色紙で七夕さんの短冊や飾りづくり、健康相談と足の体操、カードゲーム、囲碁将棋、想いの語り合い

### 【場所のセッティング】

- ① 薄い敷き布団とタオルケットを2組敷く。⇒「こういう気軽な場所なのですよ」というメッセージ
- ② 応接セット・椅子とテーブル③座机二客④ポットとお茶とお菓子

### 【ツール】

- ①色紙 ②文房具—はさみ、マジック、ペン ③カードゲー

## ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

活動をしてみて、以下のような効果があったと考察する。

まず、普段どこかに行くあてがない人にとっては、《予定ができる楽しみ》ができ、高齢男性Hさんは数日前から行くところがあることが楽しみだったと言われた。Hさんの近隣者であるSさんは二人が同じ目的で同じ行動をすることで、親しみを感じていた様子だった。また、3歳児Mちゃんに「おじいちゃん」と懐かれふたりは向き合っ  
てカードゲームを行い、Hさんは7歳児K君と将棋をするという《子どもと交わる楽しみ》があった。HさんはK君に将棋を教え、人に何かを教えることができる《有用感をもつ楽しみ》を味わった。高齢で持病があるSさんとHさんは参加者の中に保健師として働いているRさんに《健康面の相談ができ、体操も教わり新たな知識を得る》ことができた。

子どもたちの側からすればMちゃんやK君にとっては、普段あまり交わることのない小学生やおじいちゃんと遊び、《年代を超えて交わる楽しみ》を知った。前日に軽費老人ホームとの交流会で来てくれた地域の小学校の生徒2名が、何の戸惑いもなくホームに「また遊びにきたい」と思っ  
てくれて自然に仲間に入ってひと時を過ごし、《地域の子  
どもが来て、見知らぬ人の中  
で交わる楽しみ》ができた。

今回は6月ということもあり、色紙で七夕飾りを作ったのだが、色を相手にするので気持ちの華やぎがあった。願いごとを託すということは世代や年齢を超えて関心を持って取り組めることであり、《みんなで同じことを楽しむ》という一体感を味わった。

この会の始まりから終わりまで、軽費老人ホームの入居の方たちが外部からの人々をにこやかに受け入れ、《施設として、多世代の方がホームに

来ていただきホームとして活気が出た》。

終了後の声として、「自分はずっと孤独に過ごしていたから、ああして大勢の人の中にいてうれしかった。」「おじいちゃんと遊んで楽しかった。」「子どもが近寄ってきて、可愛かった。」「子どもが孫みたいと思った。」という言葉が並んだ。

## ◆今後の展開

遊び（心）や趣味、楽しみからつながって、時間や場をともにすることで地域の中の大家族（血縁に限らない、さまざまな“縁”を構築していきたい。

暖かみのある場所であり、必要に応じて学びの場所にもして、生活に必要な知識やノウハウを身につける機会の提供場でありたい。

行き場を見つけにくい人々の『拠り所』を目指し、ソーシャルインクルージョンの実践につなげていきたい。

## ◆主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数 4名  
（職種等：社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員等）
- ・取り組みを実施している施設の事業規模  
（平成22年度決算の事業活動収入） 120,000千円  
※法人全体の事業規模（同上） 1,140,000千円



近くの子どもも飛び入り参加



三世代？四世代？の交流



年齢差70才の将棋対決！



靴を脱いでのくつろぎの時間

# 地域のみなさまの健康づくりとふれあいを目的に「第1回鳥取福祉会健康ウォーク」開催

**取り組み内容のポイント** 鳥取福祉会においていただき、参加者同士、地域住民、職員との交流を図ることを第一の目的とし、老若男女を問わず簡単に行える運動「歩く」という行為をとおして、自然とふれあいながら心身ともに健康維持、増進を図ることを第二の目的とした。そして、地域の方々を中心に鳥取市全体に広く参加を呼び掛けた。

鳥取県

社会福祉法人

鳥取福祉会

〒680-0873 鳥取県鳥取市的場2丁目1番地

TEL：0857-51-7272 FAX：0857-51-7273

## ❖法人設立年

昭和53年

## ❖法人実施事業

①経営施設数合計：29施設

②経営施設・事業：

特別養護老人ホーム…1、短期入所…1、養護老人ホーム…1、特定施設入居者生活介護…1、認知症対応型共同生活介護…1、小規模多機能型居宅介護…1、通所介護…3、訪問介護…1、訪問入浴…1、居宅介護支援…3、就労継続支援A型…1、就労継続支援B型…1、生活介護…1、保育所…8、一時預かり…3、母子生活支援施設…1、地域子育て支援…1、児童館…11

## ❖法人の理念・経営方針

### 【基本理念】

「ともに生きる社会」を基調とし、地域に広がる福祉の文化の創造を推進します。

### 【基本方針】

1. 一人ひとりの人権を尊重し、誰もが心身ともに健やかに育成されるよう支援します。
2. かけがえのない社会の一員として自立支援に努めます。
3. 地域に愛され、地域に開かれた施設づくりをします。
4. 常に職員の資質向上をはかり、良質なサービスを提供します。
5. 透明性を堅持し、健全かつ活力ある法人経営をします。

## ❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

①定款記載の有無：記載していない

②事業報告・計画への記載：記載している

## ❖取り組みを実施している施設の概要

【施設名】法人本部

【施設種別及び利用定員】

本部主動で法人全体の取り組み

## ❖活動内容

◇活動開始年：平成22年10月

◇活動の対象者：主に鳥取市民

◇活動の頻度・時間：1年に1回

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人は、昭和53年に保育所の開設とともに設立された法人で、障がい福祉、老人福祉など鳥取市の総合的な福祉の担い手として躍進してきた。

このような中、平成21年度からの中期経営計画のビジョン「利用者、地域から選ばれ信頼される法人を目指し、地域との繋がりを強化しながら、経営基盤の強化と安定を図る」を掲げ達成に向けて努力している。

その初年度の平成21年度に職員有志とその家族65人が鳥取市内に12kmと8kmのウォークコースを設定し歩きながらごみ拾いを行った。歩きながらごみを拾うことが地域貢献と環境の良い暮らしが地域住民の健康増進になればとの趣旨で実施したものであった。

当日は非常に天候も良く参加した職員全員が心地よい汗と気持ちよさを感じ、昼には参加者全員で用意したおにぎりと豚汁を食べ、和やかに食事をしながら感想や課題、反省など話し合った。この気持ちよさを地域の方々にも味わってほしいという気持ちが強く、反省会とともに実行委員会を立ち上げ平成22年度「第1回鳥取福祉会健康ウォーク」開催に至った。

## ◆実施内容

「第1回鳥取福祉会健康ウォーク」は、～地域のみなさまの健康増進とふれあい～をテーマに、ボランティアに参加する職員は一丸となって、参加者のみなさまを「おもてなしの心」で迎えることとした。

法人本部を会場及びスタート・ゴールとし、法人職員から募集したボランティアがそれぞれの担当、役割を務めた。

■開催日 平成22年10月17日（日）10：00スタート

■参加者 122名

■ボランティア 66名

■コース 12km、7km

■サービス 水分補給、おにぎり・豚汁、写真撮影、血圧測定、因幡万葉歴史館入館（コース途中）

■参加費 無料

## ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

参加者は最年少3歳から最年長83歳まで年齢層は幅広く全員完歩。そのうち参加者89名にアンケートに答えていただいた。

コース、サービス等に関する項目の意見としては「景色がよく、自然がいっぱいで気持ち良かった。」「おにぎり・豚汁が大変おいしかった。」などで、大会全体に関する項目では「来年も是非、開催してください。」「次回も参加したい。」「職員の方、皆親切でとても良かった。」などのありがたい意見が非常に多く記述しており、感動するとともに次年度以降も継続することとなった。

ボランティアである職員の温かさが通じると心配したが、参加者の皆様が帰られる際には「ありがとう。」「おいしかった。」「来年もまた来る。」などと感謝の気持ちを言われ、主催者として本当に開催して良かったと感じる瞬間であった。さらに、法人全体の職員がボランティアとして参加したため普段会う機会の少ない職員同士の交流ができたことも大きかったと考える。

## ◆今後の展開

現在「第2回鳥取福祉社会健康ウォーク」開催に向けて、昨年の反省を基に前回よりどのようにしたら参加者の皆様に更に喜んでもらえるのか、より多くのニーズに応えられるのかコース設定、サービス向上、PRの方法などについて実行委員会で検討中である。

鳥取市内で当法人が41の事業を展開させていたでいるのも、地域のみなさまの協力なくしては成り立たないということを肝に銘じ、社会福祉



第1回大会ウォーク参加者

法人として今後も地域との繋がりを強化しながら、利用者、地域から選ばれ、信頼される法人を目指していきたい。

## ◆主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
宣伝費	114,408円	法人自己財源	312,652円
消耗品費	80,030円		
万葉歴史館入館料	24,800円		
食材費等	93,414円		
<合計>	312,652円	<合計>	312,652円

- ・取り組みに係わった職員数 66名  
（職種等：管理職、介護士、保育士、看護師、相談員、調理員、栄養士等）
- ※法人全体の事業規模  
（平成22年度決算の事業活動収入） 3,315,601千円



第1回大会出発風景

鳥取福祉社会健康ウォーク事務局（〒880-0973 鳥取市中央3丁目1番地）  
TEL: 0857-51-7272 FAX: 0857-51-7273  
URL: http://www.tottori-ukushikai.jp

第2回鳥取福祉社会健康ウォークパンフレット

# 行事活動を通しての地域との連携

## 取り組み内容のポイント

地域住民に当施設をよく知って、身近に感じ、いつでも出かけていただけることが出来る施設であり、緊急時にはお互いが協力体制を取れるような施設であることを目指し取り組んでいる。

鳥取県

社会福祉法人

こうほうえん

〒684-0071 鳥取県境港市外江町2680番地

TEL：0859-44-0419 FAX：0859-44-0419

## ❖法人設立年

昭和61年

## ❖法人実施事業

①経営施設数合計：16施設169事業

②経営施設・事業【種別毎の数】：

特別養護老人ホーム…7、軽費老人ホーム…5、短期入所…7、通所介護（老人デイサービス事業）…18、小規模多機能型居宅介護事業…5、生活支援ハウス…4、認知症対応型共同生活介護…8、老人居宅介護等事業（訪問介護）…4、介護老人保健施設…3、訪問看護事業…3、訪問入浴…1、福祉用具貸与…2、居宅介護支援…5、地域包括支援センター…3、高齢者向け優良賃貸住宅…1、高齢者専用賃貸住宅…2、特定施設入所居生活介護…5、通所リハビリテーション事業…5、短期入所療養介護事業…3、リハビリテーション病院…1、保育所…6、障害福祉サービス事業…5

## ❖法人の理念・経営方針

<理念>

「わたくしたちは 地域に開かれた 地域に愛される 地域に信頼される『こうほうえん』を目指します」

<基本方針>

「わたくしたちは サービス業のプロとして 正しい情報を伝達し 自分が受けたい 保健・医療・福祉サービスの 提供・改善に努めます」

## ❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

①定款記載の有無：記載していない

②事業報告・計画への記載：記載している

## ❖取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

デイハウス とのえの家

【施設種別及び利用定員】

通所介護 19名

## ❖活動内容

◇活動開始年：平成16年6月

◇活動の対象者：地域住民、ご利用者

◇活動の頻度・時間：

月1回 1回当たり1～2時間

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人では、「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される」施設・サービス提供づくりを理念に掲げている。

平成16年2月に地域に根ざした施設を目指して、古い民家を改修して「デイハウスとのえの家」開所。

開所当初は地域（外江町）のご利用者も少なく、また地域住民とも挨拶を交わす程度で困惑していた時に、開所前よりお世話していただいた近所の方より「ちょっと言い難いんだけど…」と話を切り出され、「近すぎるから通わせるのは…」「懐かしい家だから行ってみたいけど、何にも無いのに行けないよね…」など普段地域の方が感じておられることを聞くことができた。地域の中に施設が浸透されていない状況であった。職員が地域に出かけ、また施設に来ていただき「デイハウスとのえの家」を知っていただく事、身近に感じていただく企画として「パンパーティー」の開催をした。施設内で交流行事をすることでご利用者やご家族、地域住民が集まりできあがったパンを食べながら楽しいひと時を過ごし定着に結びついた。

そして、夏祭りや秋祭りで子供たちとの交流、防災協定を締結し地域住民と共に防災訓練実施など色々な展開に至った。

## ◆実施内容

### ①パンパーティーの開催

《通常》 ご利用者と共に案内状作成、配布、パン（ロールパン・チョコパン・アンパン等）作りを行い、当日来苑して下さった方々の健康チェック（血圧、脈拍、体温、あかんべーチェック、その他相談）を行い、その後一緒にリハビリ体操を行いできたてパンと飲み物でティータイムを楽しむ。  
《演芸》 公民館活動で行われている踊り・歌などの演芸の発表の場として活用していただき、その後通常通りのパンパーティーを実施。

《介護教室》 職員が講師となり身近な事についての勉強会を

行い、その後通常のパンパーティーを実施。

### ②夏祭り・秋祭りの開催

夏祭り（7月か8月）…子供たち中心で、大人も楽しめるように工夫している。

秋祭り（10月か11月）…文化祭も兼ねてご利用者の作品展示・1年間の思い出掲示等行い施設内での様子を紹介している。

### ③防災訓練

地域の方と一緒に年2回実施している。

## ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

- ・職員とご利用者と一緒に一軒ずつ案内状を配布する事で、地域の方々と直接お話が出来るようになり、施設に訪れてくださる方が増えてきた。
- ・公民館活動の発表の場になった。
- ・地域住民を対象にアンケート調査を実施、その結果（健康相談・介護予防教室）につながった。
- ・自治会活動（運動会出場依頼・ソフトボール大会出場依頼・公民館祭り手伝いなど）への参加も増えた。
- ・2010年8月31日付けで、小さな単位（1つの区）ではあるが、防災協定締結するに至った。

## ◆今後の展開

開所後8年目を迎え地域の中にやっと小さな芽が芽生えたように感じられるようになってきてい

る。しかし、まだまだ大きく成長して深く根を張って行かなくてはならないと考える。

「継続は力なり」の言葉通り、今まで続けていることは進化させながら継続し、防災関連においては、協定締結して終わりではなく、今後は協力体制の構築に向けてより一層努力していきたいと考えている。

## ◆主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数 8名  
（職種等：主任相談員、介護福祉士、介護士、看護師）



パンパーティー風景



ご利用者と共に案内状配布



地域の方と共に防災訓練実施  
（消防署員に指導を受けての消火訓練）

# なんぶ幸朋苑における予防リハビリの現状と今後

## 取り組み内容のポイント

高齢者の自立支援を目指し、地域との関わりの中で、介護予防通所リハビリテーション事業を中心に、いきいきとした生活を送っていただくよう、施設、事業所、地域包括支援センター一体で活動している。

鳥取県

社会福祉法人

こうほうえん

〒684-0021 鳥取県米子市石井1238 なんぶ幸朋苑  
TEL：0859-26-5566 FAX：0859-26-5570

## ❖法人設立年

昭和61年

## ❖法人実施事業

- ①経営施設数合計：16施設169事業  
②経営施設・事業【種別毎の数】：  
特別養護老人ホーム…7、軽費老人ホーム…5、  
短期入所…7、通所介護（老人デイサービス事業）…18、小規模多機能型居宅介護事業…5、  
生活支援ハウス…4、認知症対応型共同生活介護…8、老人居宅介護等事業（訪問介護）…4、  
介護老人保健施設…3、訪問看護事業…3、訪問入浴…1、福祉用具貸与…2、居宅介護支援…5、  
地域包括支援センター…3、高齢者向け優良賃貸住宅…1、高齢者専用賃貸住宅…2、  
特定施設入居者生活介護…5、通所リハビリテーション事業…5、短期入所療養介護事業…3、  
リハビリテーション病院…1、保育所…6、障害福祉サービス事業…5

## ❖法人の理念・経営方針

<理念>

「わたくしたちは 地域に開かれた 地域に愛される 地域に信頼される『こうほうえん』をめざします」

<基本方針>

「わたくしたちは サービス業のプロとして 正しい情報を伝達し 自分が受けたい 保健・医療・福祉サービスの 提供・改善に努めます」

## ❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無：記載している  
②事業報告・計画への記載：記載している

## ❖取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

介護予防通所リハビリテーション なんぶ幸朋苑

【施設種別及び利用定員】

介護予防通所リハビリテーション 30名

## ❖活動内容

- ◇活動開始年：平成18年4月  
◇活動の対象者：地域住民 予防リハビリ利用者  
◇活動の頻度・時間：  
介護保険（予防）週4回  
介護保険外予防事業 週2回

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

米子市の総人口約150,000人に対し介護予防事業所を管轄する地域包括支援センターは市内に7箇所、なんぶ幸朋苑はその内の一つ「尚徳地域包括支援センター」のエリアに属し、総人口は12,740人で、幾つかの住宅地を除き大半が農業を中心とする地域特性を持っている。65歳以上の高齢者は3,429人で高齢化率は26.9%と、市内でも高い数値であり、その中において高齢者の自立支援を促進する観点から平成18年に介護予防事業を立ち上げ、高齢者が健康で生き生きとした生活を送れるよう取り組んできた。高齢者の多くは住み慣れた地域で暮らす事を強く望んでおり、地域全体で支えるために、我々がその一翼を担うとともに、地域に開かれた事業所となるよう支援体制の確立に努めてきた。この地域の伝統的な特質である家庭や地域の互助、共助機能が弱まりつつあるなかで、高齢者の社会的繋がりを維持していくため、予防事業は今後の高齢者支援体制構築の貴重な礎としての役割を果たすものと確信している。

## ◆実施内容

平成18年4月に予防リハビリが独立スタートしたときの利用者は4名だった。予防リハビリには介護保険外の米子市の予防事業がある。現在では介護保険・2次予防事業・1次予防事業を含めると、ひと月の実利用者数96名、延利用者数531名まで増えてきた。主なサービス内容としては全身体操とマシントレーニングの併用で体力の維持向上を図ると共に、積極的に苑外へ出かけたり、80～90名になる苑内の通所事業所全体でのレクリエーションに参加するなど、社会的関わりを実感出来るように、また孤独感のない生活を送れるように工夫を凝らして取り組んでいる。要支援者は地元地域包括支援センターからの利用が75%、他地域からは25%であるのに対して市の2次、1次の予防事業は100%地元からの利用である。護送船団ともいえる送迎には上記事業の区別はない。区別がないからまとまって来やすいし、なじみが広がるのだと利用者が話される。ゆっくり会話の時間を費やしていただ

くように小サロンも設置し動き出している。トレーニング以外は時間刻みという事はしていない。

### ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

地域との深い関わりのなかで「自らの健康管理と日常生活の充実を図る事ができ、以前の生活にはなかった楽しみができた」という声をよく聞くようになった。コミュニティーの中での存在感を実感できる場所になっているという事ではないだろうか。その裏にはリハビリ、介護、地域包括支援センタースタッフ等の連携と事業の計画性や個々に対する適切なプランと評価が存在していると感じている。一方で、介護はまだ不要だと考えている無関心期の高齢者には、「予防」という視点が大切であることを伝えてきた。それによって住民の健康意識も高くなった。予防利用者の中には長年ボランティアで、苑内にある特養の利用者に生き生きとして昔話の読み聞かせを行っている方もいる。そうした技を發揮していただくよう職員は目配りしているし、雰囲気の高揚が活性化のバロメーターとして跳ね返ってくるので仕事のやりがいを感じている。また今年度より、予防の観点から、認知症早期発見対策として、利用者全員を対象にタッチパネル式物忘れプログラム用いたチェックも行っている。今後は結果を追って認知症ケアに繋がる取り組みを考え実践していきたいと考えている。

### ◆今後の展開

今後、当地においても高齢化率は増加の一途を辿り、予防のニーズが急速に高まると予想される。事業所の定員をそう簡単に増やすことは難しく、また職員だけの総合的な支援にも限界がある。そのためには早い段階で関係機関や住民団体との連携を図り、地域支援体制の編成に寄与すべく取り組みたいと考えている。包括支援センターが管轄する中学校区というやや広い、しかし強い関係で結ばれている地域住民と、職員や利用者との交流のなかで信頼関係を構築し、地域の高齢者の活性化に向けて前進して行きたいと考えている。

### ◆主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数 30名  
（職種等：理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員）

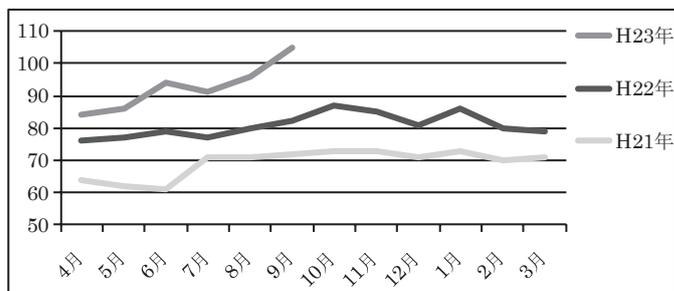


リハビリスタッフによる指導風景



個々に合った作業等の活動風景

なんぶ幸苑介護ケアにおける参加実人数（23年9月は見込み）





**地域における**

---

**福祉の推進**

---

# おうぎの森のだいどころ ごはんの先生は今日もゆく！

## 取り組み内容のポイント

ずばり、「簡潔な内容で忘れない、実生活で役立つ！」を目標に講演しております。  
いくら素晴らしい講義やレクチャーをしても、それが実際に使えなければ意味がありません！

埼玉県

社会福祉法人

永寿荘

〒331-0071 埼玉県さいたま市西区高木602  
TEL：048-625-5000 FAX：048-625-7861

## 法人設立年

平成14年12月

## 法人実施事業

- ①経営施設数合計：4施設10事業  
②経営施設・事業【種別毎の数】：  
特別養護老人ホーム…2、短期入所…1、通所介護…1、保育所…1、一時保育事業…1、地域子育て支援事業…1、リハビリデイサービス…1、居宅介護支援事業所…2  
(保育所、一時保育事業、地域子育て支援事業他5事業を平成24年度開設予定)

## 法人の理念・経営方針

『For The Community ~地域の皆さまのために私たちができること~』社会福祉法人永寿荘は、『For The Community ~地域の皆さまに私たちができること~』を法人理念に掲げ、地域でオンリーワンの施設を目指しております。地域に耳を傾け、地域でお困りの皆さまのニーズに合わせたサービスを提供し、地域全体が笑顔でハッピーになるように、永寿荘の活力をお届けしています！

## 取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無：記載していない  
②事業報告・計画への記載：記載している

## 取り組みを実施している施設の概要

### 施設名

社会福祉法人永寿荘 栄養室

### 施設種別及び利用定員

特別養護老人ホーム扇の森…120名(内ショートステイ…20名)  
デイサービスセンター扇の森…40名、おうぎの森保育園…72名、  
特別養護老人ホーム今羽の森…100名 等  
栄養室は法人すべてにおけるご利用者様の栄養・健康管理をしております。

## 活動内容

- ◇活動開始年：平成21年4月  
◇活動の対象者：  
赤ちゃんからお年寄りまで、すべての方！  
◇活動の頻度・時間：  
平均して月1～2回、1回1～3時間程度実施。

## 活動実施の背景、実施にいたった理由

社会福祉法人永寿荘は、平成16年に特別養護老人ホームを、平成19年に保育園の運営を開始。特養ではお年寄りの栄養ケア・マネジメント、保育園では乳幼児の食育を栄養士・管理栄養士がそれぞれ担当。

転機は平成21年1月、それぞれの栄養士・管理栄養士がすべての施設の栄養業務ができるように、と「栄養室」が誕生したときだった。今までそれぞれの施設でバラバラだった栄養士・管理栄養士・調理師等総勢7名が集まり、知恵を出し合って栄養ケア・マネジメントも食育も全員で携わるようになった。三人寄れば文殊の知恵という言葉があるように、7名集まった栄養室はすべてのライフステージにおける栄養について網羅できた。これは永寿荘だけに留まらせておくのはもったいない！地域の皆さまのために私たちができることはこれだ！

平成21年4月、埼玉県食育ボランティアに「おうぎの森のだいどころ」と銘打ち、栄養室こと「ごはんの先生」の活動が始まった！

## 実施内容

埼玉県食育ボランティアに団体登録している。今まで小学校、特別支援学校、保健センター、子育て支援センター等で活動してきた。基本的には、ご依頼者が埼玉県食育ボランティアに登録している個人・団体に直接連絡し、希望に沿ったボランティアができるか等をすり合わせて実施。しかし、「おうぎの森のだいどころ」は来るもの拒まず！私たちの知識が必要とあれば、埼玉県全土、どこへでもゆく！

<今までの実施履歴抜粋>

- ①久喜市立清久小学校  
対象者：小学4年生とその保護者  
内容：講義【お箸の正しい持ち方】【バランスの良い食事】  
実習【簡単にできるヘルシーおやつ】
- ②越谷西特別支援学校  
対象者：保護者

内 容：講義【楽しく食べることは、楽しく生きること】【食生活についてのお悩み相談会】

実習【調理法でこんなに違う?!低カロリー術】

③さいたま市西区保健センター

対象者：保護者

内 容：講義【お箸の正しい持ち方】【子どもの食生活】

④おうぎの森保育園子育て支援センター

対象者：保護者

内 容：講義【離乳食について】【食中毒について】【子どもの好き嫌いについて】

実習【簡単おやつ:マフィン、蒸しパン、ゼリー等】【チョコレート作り】等

◆活動効果 (利用者や職員、地域などの反応、影響)

ごはんの先生の一人が、おうぎの森保育園の栄養士と知ってくれたお母様は「こんなそばに頼れる栄養士さんがいて良かった!」と言ってくれた。また、特別支援学校のお母様からは、「今日の講義は目からウロコでした。今日の夜ごはんから早速実践します!」というメッセージをくれた。ご依頼者である学校の先生からは「ボランティア(費用無料)なので、正直期待していなかったのだけど、本当に役に立つ講義や実習で、今まで開催した保護者会の中で一番内容が濃かったし、保護者から絶賛の声がたくさんなの。またお呼びしてもいいかしら?」とお電話をいただいたりした。「もう一度ききたい」との声もたくさんいた



【バランス良い食事】三色食品群知ってるかな?



調理実習を前にワクワク!

だいている。これらは、講義や実習の内容が実践的で使えるものであったからだと確信している。

◆今後の展開

この活動が地域の皆さまの心に少しでも残り、食事や健康、育児、介護についての不安や心配事がなくなるようにと願いをこめて、これからも埼玉県食育ボランティアに団体で登録をし続け、さらに広い地域の皆さまのお役に立ちたいと思っている。おうぎの森保育園での子育て支援センターでは、今年度から毎月「食育アラカルト」という地域向けの食育活動を開催した。

また、3月11日におきた東日本大震災では、予想外の放射能問題まで引き起こした。食の安心がさらに危ぶまれるこの時代だからこそ、私たちのような栄養士が正しい情報を発信していくべきなのだと感じている。埼玉県食育ボランティアとして何ができるのかを考え、適切な活動をしていく所存である。

◆主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
配布資料等材料費	5,000円	法人負担額	10,000円
試作品食費	2,000円		
その他雑費	3,000円		
<合計>	10,000円	<合計>	10,000円

- ・取り組みに係わった職員数 7名  
(職種等：栄養士・管理栄養士・調理師)



「おいしー!」家でも作れる簡単おやつできました!



【低カロリー術】に真剣そのもの

# 地域における養育力向上を目指して

## 取り組み内容のポイント

地域の小中高生に、園児とのふれあいを通して養育力をつけてもらい、地域における将来的な養育力向上をねらいとした活動である。各参加者に対する自己評価表作成及び個別養育力向上プログラム策定を行い、スキルアップの「みえる化」を計った点にポイントがある。

東京都

社会福祉法人

ダビデ会

昭島ナオミ保育園

〒196-0034 東京都昭島市玉川町1-10-4

TEL: 042-545-3561 FAX: 042-545-3564

### ❖法人設立年

1979年3月7日

### ❖法人実施事業

- ①経営施設数合計：1施設
- ②経営施設・事業【種別毎の数】：  
保育所…1

### ❖法人の理念・経営方針

1. 健全育成
2. 福祉的教育支援
3. 地域福祉サービス推進

### ❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無：記載している
- ②事業報告・計画への記載：記載している

### ❖取り組みを実施している施設の概要

#### 【施設名】

昭島ナオミ保育園

#### 【施設種別及び利用定員】

保育所 108名定員

### ❖活動内容

- ◇活動開始年：2007年4月
- ◇活動の対象者：  
地域の小学生、中学生、高校生対象
- ◇活動の頻度・時間：  
・7、8月期 夏休み期間を利用して、1日8時間  
(8:30～4:30)  
・月曜日～土曜日

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

少子高齢化が著しくかつ、「青少年と共に歩む都市宣言」を強いられる地域がらもあり、現状はあそび場の減少に伴い、行き場のない小中高生が、特に長期休暇中ゲームコーナー等へと集中し、トラブルが絶えないといった状態である。また卒園生の保護者から寄せられる相談内容についても深刻化しており、卒園後の子ども達の将来を苦慮していた。また、養育力の低下した親による被虐待児の増加や小学生や幼児を対象とした、いたずら、かつあげ、いじめまがいの行為が「不審者情報」として毎日のように送られてくる現状に日々悩まされ、保育所として出来る事はないかと模索していた。その折、中高生の職場体験が始まった。これをヒントに夏休み等の長期期間を利用した、地域の小中高生対象に保育所体験事業を実施してみたらどうかと考えた。そこで、参加者募集にあたり、保育所内の職員の意識改革に着手した。当時は、保育所保育の重要性をかんがみると、地域に手を出している余地はないといった意識が主流であった。しかし、地域に生きる保育所保育の重要性を説くうちに保育所体験事業開始に理解を示しはじめた。そこで開始に踏み切ったのである。

## ◆実施内容

健全育成及び道徳的な題材の推薦図書の紹介と同時に、各年齢における園児交流の諸注意を、活動開始期間中毎朝定刻に行う。この時点で、1日の自己目標を各自が立て、1日の活動終了時に目標と照合しながら自己評価を記載する。また、各参加者に個別養育力向上プログラムを策定し、それを基にして各クラスリーダーが策定一覧表に記載していく。無記載の項目は、各参加者のこれから取り組むべき課題を示すことになる。こうした一覧表を基に全職員で参加者にその項目に対する指導援助を行う。そして活動の終了時に、各参加者への指導援助の方法やプログラムの全行程を通じた反省点、改善点等を出し合い、翌年へつなげる。こうした一連の行為により、P→D→C→Aサイクルが回ることになり、全

参加者が各プログラム終了時及び、一年一年確実に力をつけていく事となるのである。また、参加者に指導援助をする職員にとっても、1つの事柄を伝達、伝授するスキルが向上することになり、組織としての人材育成力向上につながる。

### ◆活動効果 (利用者や職員、地域などの反応、影響)

活動開始時は、参加者が2人だったうえに保育所職員の意識も、大変面倒な仕事に加わり負担感いっぱいであった。しかし、リピーターが増えるにつれ、力を付けてきた子ども達が、保育助手の仕事を楽々こなすようになると、子ども達の潜在的な養育力向上への援助が、保育に役立つ実践力の担い手育成にもなると実感し、このプログラムに積極的になった。そして、参加者育成の過程で指導援助力が向上しそれが、新人育成にもつながり組織的な人材育成力向上へと発展した。また、参加者も年々増え、現在では募集開始後ほぼ1週間以内に定員に達してしまう。その一因として、プログラム終了時の作文指導の成果が各学校で取り上げられ、さらなる応募者数の増加をよんでいることがあげられる。さらに園児も、この交流を喜び、あそびに広がりが出ている。地域住民からは例えば小中高生とサッカーをする1歳児を見て絶賛されている。

### ◆今後の展開

今後の課題としては、本事業における地域の養育力向上を目指す主旨からすれば、なるべく多数の応募者を受け入れたいが施設の許容範囲等の都合もあり、定員を設けざるを得ないことがあげら

れる。また、学童補助用の教職員を専属で設けたいが、その人件費を捻出できずにおり園長を含む職員のボランティアで成り立っている。現在、参加者から長期休暇期間中のみならず、年間を通じての事業活動を切望されており、施設の許容量や人件費等の課題をいかにすべきか、定員はどうすべきかといった点について試案中である。そこで今後は指導者の役割を担うボランティア人材として、シルバー人材を生かす取り組みを考案し、この事業を発展させたいと模索している。

### ◆主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数 8名  
(職種等：園長、理事長、保育士)
- ・取り組みを実施している施設の事業規模  
(平成22年度決算の事業活動収入) 183,788千円
- ※法人全体の事業規模(同上) 186,597千円



0～1才児活動：オムツかえもかなり上手



2才児活動：ねかせるのもコツがあるんだよ!!



朝礼：今日の目標は何にしようかな?!

# 食事を通じて、職員の専門的知識、スキルを地域住民に開放し、役立てる。

## 取り組み内容のポイント

高齢化社会に向けて、社会福祉法人として地域に向け、介護の専門職として、情報発信していく。

「口腔ケア」「食事介助」「形態別食事の説明・試食会」等の勉強会の実施。

神奈川県

社会福祉法人

中心会

〒243-0431 神奈川県海老名市上今泉4-7-1

TEL: 046-231-7152 FAX: 046-231-5449

## ◆法人設立年

昭和28年

## ◆法人実施事業

- ① 経営施設数合計：5施設
- ② 経営施設・事業【種別毎の数】：  
特別養護老人ホーム…4、訪問介護…1、短期入所…3、通所介護…3、養護老人ホーム…1、養護短期入所…1、訪問入浴…1、居宅介護支援…2、地域包括…2、児童養護施設…1

## ◆法人の理念・経営方針

私たちは、私たちが活動する地域社会において、自分や自分の大切な人が抱える心身の障害や生活環境上の問題によって、様々な「不自由」「生きにくさ」を現に経験し、または経験するだろうリスクを有する人々に対して、適切な専門性の担保された養護、介護、及びこれに関連する諸サービスを提供することを通じて、誰もが自分の存在に誇りを持ち、生きる喜びを享受するとともに、自分の家族や隣人の存在を素直に喜ぶことができる社会づくりに貢献します。

## ◆取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ① 定款記載の有無：記載していない
- ② 事業報告・計画への記載：記載している

## ◆取り組みを実施している施設の概要

### 【施設名】

中心荘第一老人ホーム

中心荘第二老人ホーム

### 【施設種別及び利用定員】

中心荘第一老人ホーム：

特別養護老人ホーム（定員50名）

中心荘第二老人ホーム：

特別養護老人ホーム（定員50名）

短期入所生活介護（定員5名）

認知症対応型通所介護（定員12名）

## ◆活動内容

◇活動開始年：2011年1月

◇活動の対象者：地域住民

◇活動の頻度・時間：

・1回/年の実施、2～3時間

（開始年は1回とし、参加状況により開催頻度を検討していく）

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

事業所の22年度の品質方針として、  
地域との連携

⇒中心荘のファシリティー（設備・備品）を広域の方の有効活用に供する。

また、職員が保持している専門職のスキル・知識を事業所だけに留めず地域に開放、役立てていく。

を掲げた。

そのため、地域の方を対象として、わかりやすく、参加しやすいよう「お年寄りの食事サポート教室」として実施した。

## ◆実施内容

「お年寄りの食事サポート教室」として

- ① 看護師による施設で実施している食前のお口のマッサージや体操、その必要についての説明と実演。資料配布。
- ② 介護課職員による「食事介助方法」について、実演を加えての講習会の実施。資料配布。
- ③ 施設で提供している食事の「形態」についての説明と試食、簡単にできる介護食の実演、施設で提供している「ソフト食」の紹介。
- ④ 質疑応答

## ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

参加された方からは、説明、実演ともわかりやすかった、これから自分自身にも関わってくることなのでとの反応が多かった。実際に形態別の食事を試食して、実体験して頂くこともでき「刻み」「超刻み」形態、一口は召しあがっていたが、二口目に進まれる方が少なかった。

水分もトロミ付きのものを飲んでいただき、飲み込みの感じなども体験されていた。

最後に厨房の調理師にも参加してもらい、質疑応答の時間を作ることにより、参加者、職員と和気あいあいとした雰囲気の中かで実施することができた。

最後は本来の目的と逸れてしまう結果だったが、雰囲気の

良い状態で実施できた。

初めての試みで、何が必要とされているのか手探り状態ではあったが、今回の実施で僅かではあるが地域の方々のニーズを知ることができた。

それと同時に、自分達のプレゼン能力不足を感じた。

## ◆今後の展開

最低、1回/年実施とし、参加人数により実施回数を見直していく。

今回、参加者が少なかったため、集客数の確保を図るため、広報活動を見直していく。

(ポスターを掲示するだけでなく、自治会の回覧に入れてもらう等)

地域の方が望まれていることを、コミセン祭り等から聞き取り、盛り込んで行く。

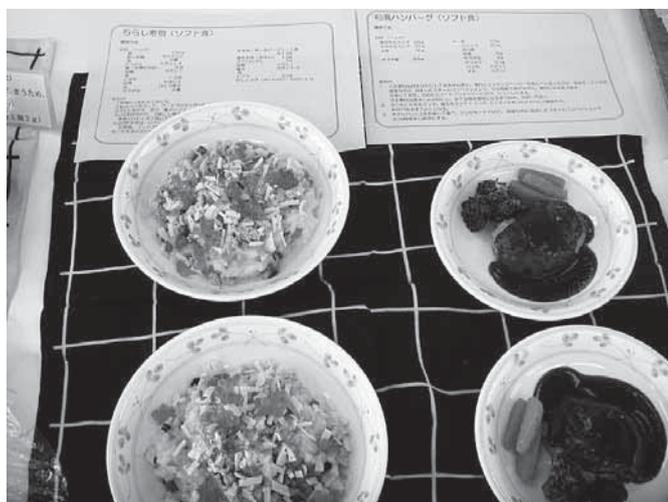
## ◆主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
配布資料等材料費	5,000円	法人負担額	10,000円
試作品食費	2,000円		
その他雑費	3,000円		
<合計>	10,000円	<合計>	10,000円

- ・ 取り組みに係わった職員数 7名  
(職種等：看護師、介護福祉士、生活相談員、栄養士)
- ・ 取り組みを実施している施設の事業規模  
(平成22年度決算の事業活動収入)
- ・ 第一 217,202千円
- ・ 第二 214,632千円

※法人全体の事業規模(同上) 1,867,384千円



ソフト食の紹介



食事介助について説明



形態別食事の説明



お口のマッサージや体操について説明

# 小規模事業所に対する支援～介護福祉士国家試験 受験対策講座～

## 取り組み内容のポイント

介護福祉士受験対策講座を開催し、当法人職員のスキルアップを図るとともに、「地域人材の育成」を目的に近隣の小規模事業所へも受講を募った。

京都府

社会福祉法人

南山城学園

〒610-0111 京都府城陽市富野狼谷2番地1

TEL：0774-54-7210 FAX：0774-54-2117

### ❖法人設立年

昭和40年

### ❖法人実施事業

- ①経営施設数合計：8施設（入所）
- ②経営施設・事業【種別毎の数】  
障害者支援施設…7、介護老人保健施設…1、  
デイサービスセンター…4（知的・身体・高齢）、  
診療所…2 他

### ❖法人の理念・経営方針

- ・利用者様の尊厳を守り、幸福を追求する。
- ・地域のニーズにパイオニア精神で取り組み、「共生・共助」の地域づくりに貢献する。
- ・いつでも誰もが安心して利用できる福祉サービスを創造する。

### ❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無：記載していない
- ②事業報告・計画への記載：記載している

### ❖取り組みを実施している施設の概要

#### 【施設名】

法人主催

#### 【施設種別及び利用定員】

### ❖活動内容

- ◇活動開始年：平成22年9月
- ◇活動の対象者：  
京都府南部地域の小規模事業所職員  
（主に障害、高齢）
- ◇活動の頻度・時間：  
9月～12月、月2回、計9回  
1回当たり2時間30分程度

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人では職員のスキルアップの一環として資格取得を推進しており、その支援対策として平成21年度より一般社団法人京都府介護福祉士会様の協力を得て、法人職員向けに介護福祉士受験対策講座を開催した。35名の職員が受講し、7月より計8回の講義と模擬試験を経て、翌年の国家試験に臨み、13名の合格者を出す結果となった。

その成果と、社会福祉法人としての役割を鑑み、平成22年度より同講座の受講について近隣の小規模事業所へも募集をかけ、「地域人材の育成」を目指すこととした。

## ◆実施内容

「地域人材の育成」を目的に、近隣の小規模事業所（主に障害、高齢、計31事業所）に同講座開催の案内を送り、受講者を募った。結果3事業所、計4名より応募を頂き、当法人職員10名とともに受講して頂く運びとなった。京都府介護福祉士様に講師の依頼をし、9月より計8回の講義と模擬試験を開催した。講義では、教科ごとにポイントを絞り、過去問題を取り入れながら出題傾向とその対策に重点を置く内容とした。

## ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

当法人職員を含め、本講座を受講することで、計画的かつ効果的に、また意識を高く持ち試験に臨むことができたと考えている。結果は、受講者14名中、3名の合格者を出し、うち2名は近隣事業所の職員であった。また、合否に関わらず、近隣事業所より開催に対して好意的な反応が多く、次年度以降の継続開催を望む声もあった。

「地域人材の育成」が主たる目的ではあるが、同講座開催により、近隣事業所との新たな接点が生まれ、これまで築いてきた関係性をより向上することが出来たのではないかと感じた。

また、現在、京都府の企画のもと進められている「きょうと介護・福祉ジョブネット」にて実施されている介護福祉資

格取得支援講座の開催においても、当法人の取り組みを基に企画されたものとなっており、京都府全域で講座が開催されている。

## ◆今後の展開

当法人職員のスキルアップと地域人材の育成を目的に次年度以降も開催する予定である。

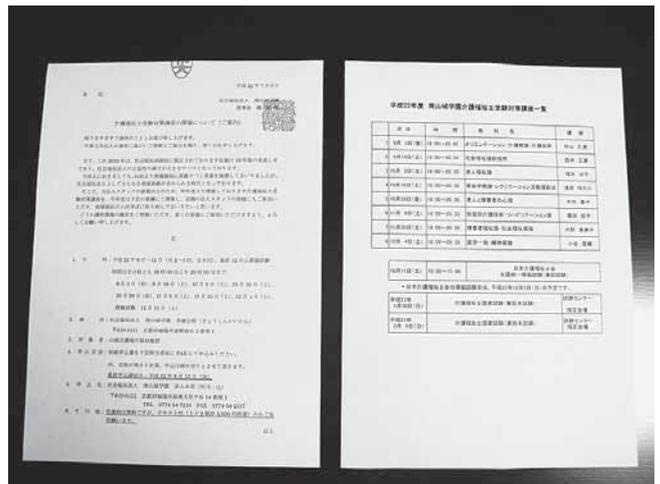
今後はより多くの合格者を出せるよう講義の質を上げるとともに、近隣事業所へも引続き募集を行い、地域人材の育成と関係性の向上に努めていきたい。本講座の開催は、「地域人材の育成」だけでなく、「地域における福祉ネットワークの向上」においても効果的な取り組みであると考えている。

## ◆主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
講師派遣料等	222,224円	法人負担額	292,224円
模擬試験受講料	70,000円		
<合計>	292,224円	<合計>	292,224円

- ・ 取り組みに係わった職員数 約5名  
(職種等：施設長、事務員等)



近隣事業所宛開催案内と講座予定表

# 絵冊子「ひいじいちゃんはビールづくりのかみさま」 ～発行を通じた福祉教育教材の提供活動～

**取り組み内容のポイント** 特養の入居者が演じるミュージカル「吹田村アサヒビール物語」を観劇した吹田市立岸部第二小学校の児童及び、他地域の小学校の児童、保育園児などに、アサヒビール吹田工場と特別養護老人ホーム寿楽荘を舞台にした絵冊子「ひいじいちゃんはビールづくりのかみさま」を福祉教材として配布することにより、福祉教育を推進し、子供たちが大人になっていく中で育つ福祉のまちづくりを前進させる。

大阪府

社会福祉法人

寿楽福祉会

〒564-0001 大阪府吹田市岸部北4丁目9番3号

TEL：06-6337-8400 FAX：06-6339-6628

## ◆法人設立年

昭和63年

## ◆法人実施事業

- ①経営施設数合計：3施設  
②経営施設・事業【種別毎の数】：  
特別養護老人ホーム…1、通所介護…2、老人  
居宅介護等事業…2、居宅介護支援事業…3、  
保育所…1

## ◆法人の理念・経営方針

- 高齢者が安定した老後を送っていただけるよう  
1. 人間性を尊重し、自主性を基本とした、明るく、楽しい、あたたかみのある運営に努める。  
2. 都市の中での施設として、地域社会との連携を深め、誰からも親しまれる事業運営とサービス提供に努める。

## ◆取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無：記載していない  
②事業報告・計画への記載：記載している

## ◆取り組みを実施している施設の概要

- 特別養護老人ホーム寿楽荘  
特別養護老人ホーム(50名) 老人短期入所(4名)
- 寿楽荘 千里山西デイサービスセンター(老人デイサービスセンター)  
一般型(50名) 認知型(11名)
- 寿楽荘 竹谷生活リハビリハウス(老人デイサービスセンター)  
一般型(10名) 認知型(10名)

## ◆活動内容

- ◇活動開始年：平成22年10月  
◇活動の対象者：  
吹田市立岸部第二小学校児童及び、寿楽福祉会施設近隣の小学校児童及び幼稚園児、そして吹田市内の保育園児・障害児施設の園児など  
◇活動の頻度・時間：  
ミュージカル(年1回、1回あたり1時間)  
今回の絵冊子発行は今回が初めての取り組み

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

平成16年11月から毎年、吹田市立岸部第二小学校体育館において、特別養護老人ホーム寿楽荘の入居者が手づくりミュージカル「吹田村アサヒビール物語」を上演し、3年生児童が授業で社会見学したアサヒビール吹田工場の歴史と重ねて「わがまち吹田」を学習した結果、学校側より「大変良い福祉教育、郷土教育、社会教育となった」との評価を得てきた。

併せて、特別養護老人ホーム寿楽荘の入居者の自主活動を岸部地区の民生・児童委員協議会などがサポートすることにより、地域連携で「介護・福祉・教育」活動を展開することができた。

その取り組みの中から「介護・福祉・教育」を絵本にまとめ上げ、吹田全体の子ども達に発信し、福祉のまちづくりを更に発展させてほしいとの声が地域より上がり、「ひいじいちゃんはビールづくりのかみさま」というタイトルの絵冊子を発行することになった。

## ◆実施内容

特別養護老人ホーム寿楽荘に1995年に入居し、2006年1月に96才で亡くなった男性が主人公の物語である。

その男性は、アサヒビール発祥の地、大阪府吹田市にあるアサヒビール工場でビールを熟成させる木製の「貯酒樽」の製造・修理・管理をする仕事に従事し、仕事ぶりは“ビールづくりの神様”と評されるほどだった。

物語は、その男性を見舞いに訪れたひ孫の“ひろしくん”がちょっとしたことでけんかになり、「ひいじいちゃんは車いすにのって弱い」と言ってしまうが、「ビールづくりのかみさま」と呼ばれた過去を知り、「ひいじちゃんてすごい!」という尊敬の気持ちを新たにするというあらすじである。寿楽荘でその男性を介護してきた生活相談員が文を、絵は灰谷健次郎の「兎の目」で知られる絵本作家の長谷川知子さんに手掛けていただいた。

その絵冊子の発行にこぎつけることができたのは、実は、

吹田市が市民公募した「吹田市制施行70周年市民手づくり事業」の支援を得ることができたことも大きく、絵冊子発行の大半の費用を吹田市から提供していただいた助成金によりまかなうことができたからである。

### ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

私達は、「核家族化で祖父母と同居していない子どもが多い中、おじいちゃんやおばあちゃんは“すごい”と思ってほしい。人はいろんな力を持っていることに気づける人になってほしい」と願ってきた。また「きつい、きたない、低賃金」と敬遠されがちな介護の仕事を理解していただきたいとの思いもあり、介護者、要介護者のどちらにもエールになってほしく、子ども達の未来の夢の仕事の一つに福祉の仕事が加われるきっかけとなれば嬉しいと願ってきた。

その寿楽福祉会の思いはこの絵冊子発行により、吹田の介護事業所、福祉関係者にとどまることなく、吹田の教育者、家庭でも話題を呼んでいる。

### ◆今後の展開

「ひいじいちゃんはビールづくりのかみさま」の発行を通し、地域の福祉職員のみならず、民

生・児童委員の方々、そして、教育者、そして、吹田のまちで暮らす方々に、高齢者の輝いていた時代をささやかに伝えることができたが、次年度は「老年よ大志を抱け」を合言葉に、吹田のまちで元気に暮らす高齢者の方々にエールを送ることを目的とした市民手づくりの冊子を作る予定である。編集は寿楽福祉会が行い選考委員は、吹田の民生・児童委員協議会の会長や学校の校長先生などに依頼している。

高齢者が元気に生きることが出来る街づくりの支援に向け、得意とするレポート、作文、随筆、短歌などで作品を提供していただく計画である。

### ◆主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
作画料	100,000円	吹田市制70周年記念事業市民手づくり事業（補助金）	300,000円
絵冊子印刷費	410,000円	絵冊子発行募金	110,074円
ピアノ演奏謝礼	10,000円	法人からの繰入金	109,926円
<合計>	520,000円	<合計>	520,000円

- ・取り組みに係わった職員数 45名  
（職種等：施設長・生活相談員・介護職員・事務員・看護職員・ケアマネ・在宅ヘルパー）
- ・取り組みを実施している施設の事業規模  
（平成22年度決算の事業活動収入） 204,938千円  
※法人全体の事業規模（同上） 617,233千円



絵冊子「ひいじいちゃんはビールづくりのかみさま」の写真



絵冊子「ひいじいちゃんはビールづくりのかみさま」を紹介する新聞記事

# 地域の活力と健康づくりを目指す「健康くらぶ」

## 取り組み内容のポイント

南デイサービスセンターの職員が、地域の公民館に出向き地域の方々に介護予防のための運動や健康についての勉強会を開催。地域に少しでも福祉の風を吹かせ、介護予防に関心を深める等、福祉施設として地域に恩返しをする為、継続的に活動している。

鳥取県

社会福祉法人

鳥取福祉会

〒680-0873 鳥取県鳥取市の場2丁目1番地

TEL：0857-53-6553 FAX：0857-53-7291

## ❖法人設立年

昭和53年

## ❖法人実施事業

①経営施設数合計：29施設

②経営施設・事業：

特別養護老人ホーム…1、短期入所…1、養護老人ホーム…1、特定施設入居者生活介護…1、認知症対応型共同生活介護…1、小規模多機能型居宅介護…1、通所介護…3、訪問介護…1、訪問入浴…1、居宅介護支援…3、就労継続支援A型…1、就労継続支援B型…1、生活介護…1、保育所…8、一時預かり…3、母子生活支援施設…1、地域子育て支援…1、児童館…11

## ❖法人の理念・経営方針

### 【基本理念】

「ともに生きる社会」を基調とし、地域に広がる福祉の文化の創造を推進します。

### 【基本方針】

- 一人ひとりの人権を尊重し、誰もが心身ともに健やかに育成されるよう支援します。
- かけがえのない社会の一員として自立支援に努めます。
- 地域に愛され、地域に開かれた施設づくりをします。
- 常に職員の資質向上をはかり、良質なサービスを提供します。
- 透明性を堅持し、健全かつ活力ある法人経営をします。

## ❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

①定款記載の有無：記載していない

②事業報告・計画への記載：記載している

## ❖取り組みを実施している施設の概要

鳥取市南デイサービスセンター

### 【施設種別及び利用定員】

通所介護：定員数40人・訪問入浴介護ステーション・訪問介護ステーション・南居宅介護支援センター

## ❖活動内容

◇活動開始年：平成19年5月

◇活動の対象者：

公民館地区の健康について興味を持っておられる方。

◇活動の頻度・時間：月に2回 10：00～12：00

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人の【基本理念】は『「ともに生きる社会」を基調とし、地域に広がる福祉の文化の創造を推進します』であり、【基本方針】の中に『地域に愛され、地域に開かれた施設づくりをします』と掲げている。

これらを実現するために当センターでは何をすべきなのか、社会福祉法人としてどうあるべきかを考えた。そして、まちづくりの拠点である公民館に働きかけを行った。

法改正により介護予防システムが重視される中、健康づくりの意識を高めることを目的に地域活動の第一歩として南デイサービスセンター主催の介護予防教室「健康くらぶ」を立ち上げることとなった。

## ◆実施内容

■開催日 毎月第2火曜日、第4水曜日 10：00～12：00

■参加者 平成22年度 延人員150名（平均12.5名/回）

■参加費 無料

■内容 介護予防を中心とした運動や知識の啓発を通しての、健康増進と交流の場の提供を行っている。

当初は「認知症」「脱水予防」「インフルエンザ対策」「睡眠障害」「うつ予防」など季節や時期に起こりやすいものを取り上げ、パワーポイント等を使用したり資料を配布して20分～30分程度勉強会を行っていたが、現在では、運動をもっと増やして欲しいとの要望が多く、豆知識などを盛り込み1時間45分程度の運動を行っている。

また、夏の暑い時期には、「リラックス体操：ヨーガやストレッチ、ごろ寝体操」や筋力維持・向上の運動として、「ウエイトや運動器具を使用しての筋力アップ」「エアロビックスなどの有酸素運動」「自宅で簡単に工夫できる運動グッズの提案」「認知症予防：脳の体操」「リラックスケア：アロマオイルマッサージ・リンパマッサージ・ゴルフボールマッサージ」などを行っている。

## ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

開始当初は、人数も少なかったが公民館からの協力をいただき、徐々に参加者も増え、60歳～80歳代の方を中心にリピーターや口コミも広がり、安定した参加者の確保が来ている。活動をはじめて5年目を迎えたが、現在も毎月の教室を楽しみにしていただく等、互いの関係を深めている。

参加者の皆様には「ヨーガ体操で便秘がよくなりました。」「ウォーキングの前後は、教わった体操をしています。」「みんなで笑えていいなあ。」「夜眠れないからどうしたらいい?」「このエアロビックス他の人にも教えたいからもっと教えて。」「ゴルフボールのマッサージで冷え性が良くなった。気持ちがいい。」など、数え切れないほどの声をいただいている。また、みんなで大きな輪になって「貝殻節」や「草津節」を歌った運動や、「しりとりキャッチボール」では、お腹を抱えて大笑いし転げまわる場面もあった。

アロマオイルを使っのマッサージでは、好みの香りを選んでハンドやフットのケアを行った時には、「人に触ってもらえるってこんなに安心するもんだなあ。」「生まれて初めての経験で今日来て良かった。」など心も体も満足していただいている。

そして、職員が地域活動に盛んに参加するようになって、地域での役割や共に高め合う楽しさや達成感を感じ、それによって知識が深まり視野が広がり、またコミュニケーションの幅が広がってきている。



介護予防教室 アロマオイルマッサージ（公民館）

## ◆今後の展開

今年度から当センターにおいていただいで、普段出来ない運動器具やマシンを使用した体験も始めた。平日13:30～17:00と土日の日中に地域の皆様が、いつでも活用していただけるよう運動ルームの開放を行っている。

今後も、公民館との連携を図り地域の方々の健康増進、運動を通しての交流の場として継続し、地域に出向いたりおいでいただくことで、デイサービスのご利用者や地域の皆様が共に交流できる場面が出来ることを願って、努力を続けていく。

## ◆主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数 24名  
（職種等：管理職、介護士）※実施内容により変更あり
- ・取り組みを実施している施設の事業規模  
（平成22年度決算の事業活動収入） 273,942千円  
※法人全体の事業規模（同上） 3,315,601千円



介護予防体操（公民館）



運動体験（当センターにて）

# 機関紙を通じた情報発信と地域ニーズの掘り起こし

**取り組み内容のポイント** 毎月、機関紙「だんだんよ」を発行し、地域に向け継続的に情報発信することで、身近な存在と感じてもらい、地域に密着した運用や福祉施設として地域の拠点となることを目指している。

※「だんだん」…方言で「ありがとう」の意味

鳥取県

社会福祉法人

こうほうえん

〒684-0033 鳥取県境港市上道町2087-2 デイハウスあがりみち  
TEL：0859-47-6545 FAX：0859-47-6544

## ❖法人設立年

昭和61年

## ❖法人実施事業

①経営施設数合計：16施設169事業

②経営施設・事業【種別毎の数】：

特別養護老人ホーム…7、軽費老人ホーム…5、老人短期入所事業…7、通所介護(老人デイサービス事業)…18、小規模多機能型居宅介護事業…5、生活支援ハウス…4、認知症対応型共同生活介護…8、老人居宅介護等事業(訪問介護)：4、介護老人保健施設…3、訪問看護…3、訪問入浴…1、福祉用具貸与…2、居宅介護支援…5、地域包括支援センター…3、高齢者向け優良賃貸住宅…1、高齢者専用賃貸住宅…2、特定施設入居者生活介護…5、通所リハビリテーション事業…5、短期入所療養介護事業…3、リハビリテーション病院…1、保育所…6、障害福祉サービス事業…5

## ❖法人の理念・経営方針

<理念>

「わたくしたちは 地域に開かれた 地域に愛される 地域に信頼される『こうほうえん』をめざします」

<基本方針>

「わたくしたちは サービス業のプロとして 正しい情報を伝達し 自分が受けたい 保健・医療・福祉サービスの 提供・改善に努めます」

## ❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

①定款記載の有無：記載していない

②事業報告・計画への記載：記載している

## ❖取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

新さかい幸朋苑、グループホームあがりみち、デイハウスあがりみち

【施設種別及び利用定員】

介護老人福祉施設、通所介護、認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護

## ❖活動内容

◇活動開始年：平成20年4月

◇活動の対象者：地域住民、関係機関

◇活動の頻度・時間：月1回

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人では、「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される」施設・サービス提供づくりを理念に掲げている。

平成18年6月に介護老人福祉施設新さかい幸朋苑、隣接地に平成19年10月小規模多機能型居宅介護デイハウスあがりみち・認知症対応型共同生活介護グループホームあがりみちが開設。特に、デイハウスは、介護保険サービスとして制度化されてから僅か2年目と、サービス内容自体が地域の中に全く浸透していない状況があった。

新しい施設・サービスが地域の中に受け入れられ定着し、地域との信頼関係・協力体制の構築へと展開する、また、地域ニーズに対し、社会福祉法人としての専門性を発揮していくためのきっかけの1つとして、機関紙による情報発信をもとに活動を展開していくこととした。

## ◆実施内容

発行に至る初段階として公民館長、上道町各区長に発行意図を説明、協力要請を行った。

【発行頻度】：毎月1回

【発行部数】：1,050部

【配布先】：上道町1～8区全世帯、関係機関（公民館、地区会館、保育園、小中高校等）

【配布方法】：直接配布（各区長に各区の世帯分を持参）

【記事内容】：事業所の紹介（サービス内容、イベント案内、ご利用者の日々の様子、施設設備の貸し出し等）、エコ活動の啓発、介護予防・認知症予防の脳トレ・体操の紹介、地域住民の意見・感想、ボランティア・物品（食器、タオル等）提供の依頼 等

## ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

・介護保険サービスの利用、あるいは、施設や認知症に対する偏見を正しい知識や理解につなげるきっかけとなった。

- ・エコ活動の輪が地域に広がり、地域住民が直接施設にプラタブ等を持参されるようになった。(プラタブ-145.9kg、ペットボトルキャップ-153.3kg)
- ・施設で行う防災避難訓練に地域住民・警察署からの参加があり、地域の防災体制を考えるきっかけ作りになった。
- ・配布先に直接足を運ぶことで、自然とコミュニケーションが図れ、地域のタイムリーな生の声を聞くことができる。また、スタッフの意識が地域に向き、一人ひとりの視野を広げることができる。
- ・勉強室、地域住民が主催するヨガ教室等で空きスペースや設備を貸し出すことにより、地域住民が自然と施設に足を運び、施設の環境・雰囲気を感じてもらえることができる。
- ・地域住民、特に高齢者の方々から毎月楽しみにしているとの声があり、「だんだんよ」が地域に定着していることを実感している。

## ◆今後の展開

活動開始から3年が経過した。「だんだんよ」を通して地域の輪が広がりつつあり、「継続は力なり」をまさに実感している。今年度からは関係機関の配布先をさらに増やし、ネットワークの拡大を図っている。しかし、福祉拠点としての情報発信という点では、記事内容がややマンネリ傾向にある感は否めない。事業所からの一方的な情報発信には限界があると感じており、地域が本当に求めている情報をいかに発信できるか。地域代表メンバーとの運営推進会議やアンケート実施による意見・要望の抽出、作成メンバーへの地域住民の参加等を今後の課題とし、地域住民とともに作る地域の情報ステーションになれるよう取り組んでいきたい。

発行：デイハウス・グループホームあがりみち

# だんだんよ

平成20年4月号

お台場公園の桜もほころび始め、ようやく暖かい季節となってきました。新さかい聖路苑は地域の皆様に来ていただき、おかげさまで2年目を迎えることができました。また、デイハウス・グループホームあがりみちも、おかげさまで開苑半年を迎えることができました。少しでも、上道地区の憩いの場、活動の場となるよう皆様と手を携えていけたらと思います。また、地域の皆様へデイハウス・グループホームあがりみちの活動や様子を知っていただきたいと思い、今号情報誌を創刊しました。

デイハウスあがりみちの安達です。地域の皆様但至少でも身近に感じてもらえるホームを目指して頑張ります。よろしくお祈りします。

**教えて?? 一問一答!!**

**デイハウス編**

Q: どんな人が利用できるの?  
A: 堺港市内にお住まいの方で、要支援・要介護認定を受けられた方。

Q: どんなところなの?  
A: 自宅での生活を基本として、通い・訪問・泊りのサービスを一体的に提供します。

**グループホーム編**

Q: どんな人が利用できるの?  
A: 堺港市内にお住まいの方で、要支援2以上の認定を受けられた認知症高齢者の方。

Q: どんなところなの?  
A: 住み慣れた地域との関係を継続し、安心・安全な生活を提供する居住型施設です。  
※詳しくは、裏面のお問い合わせ先にご連絡下さい。

**お部屋を利用しませんか**

教室、集會、会議、勉強会など...

場所: 新さかい聖路苑、デイハウス・グループホームあがりみち  
(6~20名収容できる各スペースあり)

日時: 午前9:00~午後7:00(随時受け付け)

料金: 無料

駐車場: 有り(日中は台数に限りあり)

備考: 飲食についてはデイハウスまでお問い合わせ下さい。  
(ポット・コップは貸し出しできます。煙草・アルコールはご遠慮下さい。)

※ご予約は一週間前までにお問い合わせ致します。調整の上、ご連絡致します。

※中東の学生の皆さんへ  
歓迎状、宿題を貸しますか?  
勉強会もありますよ!!  
いつでも来てくださいね!

### 行事のお知らせ

\* 4月18日(金) 13:30~ 映画上映会  
「マイ・フェア・レディ」 主演:オードリー・ヘップバーン  
場所: デイハウスにて  
どなたでも参加できます。気軽にお出かけ下さい!  
~4月上旬にはご利用者と花見を企画しています!~

**一緒に楽しみませんか?**

ちぎり絵、お菓子作り、刺し子を一緒に楽しみませんか?  
ただ今デイハウスでは刺し子がひそかなブームに  
なっているんですよ(´O`)  
また、近所の方がご利用者の皆様と話をさせていただくために足を  
運んでいただいたり、編み物や刺繍などの活動メニューに取り組んでいます。  
いつも賑やかな声が聞こえて楽しい一日を過ごして頂いております。  
皆さんのお越しを待ってまーす。

**リサイクルにご協力ください!**

※お家に眠っている着物・帯などの古布はありませんか?  
デイハウスのご利用者と一緒にご布を使って内装の飾り付けを楽しんで  
いるんですよ。私たちと一緒に装飾を楽しみませんか?  
※観なくなったビデオ(映画)はありませんか?  
デイハウスで映画上映会を企画しております。洋画・邦画・ジャンルは  
問いません。ご連絡下さい。お待ちしております!

**「ナースの知恵袋」**

高血圧の予防は、食事・運動・入浴等の生活習慣の改善です。  
今回のワンポイントは、入浴さ!!  
入浴は、血管を広げて血行を良くするので、血圧を下げる効果  
がありますが、下記のポイントに注意しましょう。  
\* お湯はぬるめ、体温より少し高いくらい。  
\* 風呂は禁煙!  
\* 浴槽から出る時は、ゆっくりと。  
\* 寒い時は、脱衣場や浴室も温かく。

~お問い合わせ先~

〒684-0033 堺港市上道町2087-2番地

デイハウスあがりみち(管理者:安達洋) TEL.0859-47-6545  
グループホームあがりみち(管理者:松本裕子) TEL.0859-47-6546

お気軽にご相談下さい。お待ちしております!相談・見学も随時お受け致します!

# 地域の中でできること～地域の中の施設として共生に向けた取り組み～

**取り組み内容のポイント** 当法人は「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される施設を目指します」を理念に掲げ、地域の方に当施設を身近に感じていただき、入居者・職員が地域の一員であるとの意識のもと施設づくりを行っている。自治会への加入・会議室の開放等の取り組みがある中で、職員の専門職としての知識を地域の方へ広めていくことで、地域との更なる共生を目指す。

鳥取県

社会福祉法人

こうほうえん

〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-5-15

TEL：0859-23-6800 FAX：0859-23-6583

## ◆法人設立年

昭和61年6月

## ◆法人実施事業

①経営施設数合計：16施設、169事業

②経営施設・事業【種別毎の数】：

特別養護老人ホーム…7、軽費老人ホーム…5、老人短期入所事業…7、通所介護(老人デイサービス事業)…18、小規模多機能型居宅介護事業…5、生活支援ハウス…4、認知症対応型共同生活介護…8、老人居宅介護等事業(訪問介護)…4、介護老人保健施設…3、訪問看護事業…3、訪問入浴…1、福祉用具貸与…2、指定居宅介護支援…5、地域包括支援センター…3、高齢者向け優良賃貸住宅…1、高齢者専用賃貸住宅…2、特定施設入居者生活介護…5、通所リハビリテーション事業…5、短期入所療養介護事業…3、リハビリテーション病院…1、保育所…6、障害福祉サービス事業…5

## ◆法人の理念・経営方針

<理念>

私たちは、地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される『こうほうえん』を目指します

<基本方針>

私たちは、サービス業のプロとして、正しい情報を伝達し、自分が受けたい、保健・医療・福祉サービスの提供・改善に努めます

## ◆取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

①定款記載の有無：記載していない

②事業報告・計画への記載：記載している

## ◆取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

きんかい幸朋苑

【施設種別及び利用定員】

特別養護老人ホーム…30名、併設短期入所生活介護…6名

## ◆活動内容

◇活動開始年：平成18年5月

◇活動の対象者：地域住民

◇活動の頻度・時間：

状況に応じ対応しており頻度は決まっていない。時間は2～3時間程度。

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

きんかい幸朋苑の立地場所は新興住宅地の一角にあり、スーパー、医院、理髪店、喫茶店、医療福祉専門学校、同法人の錦海リハビリテーション病院といった社会資源がある。地域住民は、若い子育て世代と75歳以上の高齢者世代が多く、日頃より世代間の交流は薄いと思われ、日中は若い世代は留守が多く高齢者世帯のみが暮らすといった状況である。このような土地に当施設が開苑したことで、若い世代と高齢者世代の架け橋になればという思いと、地域の一員になりたいという思いで、開苑5年間で地域との共生を目指し、取り組みを行ってきた。その中で、施設内で年2回行っている職員対象の救急講習会への参加を、錦海町の老人クラブに声をかけたところ9名の参加があった。講習中も積極的な意見と、その後のアンケートでも定期的な開催を希望される声が多くあった。このことがきっかけで、施設の役割として職員の持つ専門職としての知識を地域へ広めていけたらとの思いで、地域(貢献)活動の中に専門職ならではの「健康について」をテーマにした取り組みを加え、地域の方が参加しやすいように職員が地域へ出向く形での活動を始めた。

## ◆実施内容

①施設内での救急講習会の開催(心肺蘇生法・AED使用法)年2回の施設職員対象の救急講習会の開催時に、自治会へも回覧板を通じて案内を行った。また、実習受け入れ施設でもあるため、実習生へも参加の呼びかけをした。

②納涼祭での健康相談

事前案内として納涼祭ポスターや回覧板で自治会へ案内した。地域からの来苑者を対象に、骨密度測定・血圧測定・疾患別のパンフレットを配布しての健康相談を行った。

③施設外での救急講習会(心肺蘇生法・AED使用法)

・錦海町自治会の集会所で開催

事前に自治会長へ案内し、回覧板を利用し全世帯にも案内した。地域のスーパーへポスターを貼らせてもらい、当日は地域の有線放送で参加者を呼びかけた。

・介護の日（11月11日）に市内のデパートで開催  
買い物客を対象に事前にポスターやチラシで案内し、当日は午前10時～と午後14時～の2回に分けて開催した。

・他事業所エリアへも出向き開催

同法人の事業所のある他地域の公民館へ出向いての救急講習会を開催した。

④認知症サポーター養成講座の開催

祇園町公民館を会場として実施した。

## ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

施設内での救急講習会后、地域の方にアンケートをとった結果、「また参加したい。」「何度でも参加することが大切」等の意見があった。また、「方法を知っていたらいざという時、助け合える」と言われた方があり、高齢者世帯同士、緊急時に対応できる知識を得たいという前向きな思いがあることが分かった。自分達の暮らしを助け合いながら守りたいという思いはあっても、知識・技術を得る機会が今まで無かったことは事実のようである。その後、介護の日の救急講習会では約20名の参加があり、若い世代の参加も多かった。活動場所を施設内に留まらず、施設外に移した理由として、地域の方が日頃から利用し、集まりやすい環境のほうが交流が深まるのではないかと考えた。結果、気軽に参加でき、効果的であったと思われる。更に、職員が地域の資源を活用することで地域の一員としての自覚や、サービスをより知ってもらうことができ、地域との相互関係を築くことができたのではないかと感じた。その他、認知症サポーター養成講座や健康相談等の取り組みを行っているが、ここでは年齢層も様々であった。施設の取り

組みの中から薄れていた世代間の交流が生まれるきっかけになったと感じた。これらの取り組みから、年齢に関係なく「健康について」の意識は高く、機会があれば積極的に参加したいとの思いがあることが分かった。

## ◆今後の展開

開苑5年間で、様々な地域活動の取り組みを行ってきた。他にも風通しの良い施設を目指し施設機能を地域の方へ開放している。地域の小学生たちが遊びスペースに訪れたり、会議室では中・高生が勉強に訪れる姿が見られている。今後は若い世代にも目を向け、職員の持つ専門性を生かして、小・中・高校への訪問など活動範囲を広げ福祉教育の一助として担っていきたいと考える。社会福祉法人として、地域福祉の拠点として次世代へつなげる架け橋でありたいと思う。そして、職員一人一人が地域の中の一員であると意識し地域と施設の共生を目指して努力し続けていきたい。

## ◆主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数 31名  
（職種等：取り組みに応じて各職種が対応）



会議室での勉強風景



集会所での救急講習会



施設内での救急講習会



市内デパートでの救急講習会



**地域と他機関との**  
-----  
**ネットワーク活動**  
-----

# 特定地域における通所サービス事業所及び従業者間のネットワーク構築と組織化への取り組み

## 取り組み内容のポイント

地域のご利用者さまに対し、質の高い通所サービスを提供することを目的に手稲区通所サービス連絡会（以下、連絡会）を設立（会員制）。地域の通所系サービスのための研修会の企画、従業者間の交流やネットワーク作り、ボランティア活動などを中心に活動している。

北海道

社会福祉法人

溪仁会

〒006-8555 北海道札幌市手稲区前田1条12丁目1番40号  
TEL：011-685-2568 FAX：011-685-2945

## ❖法人設立年

1982年

## ❖法人実施事業

①経営施設数合計：8施設

②経営施設・事業：

特別養護老人ホーム…3、老人保健施設…4、ケアハウス…1、通所介護…9、通所リハビリテーション…4、グループホーム…2、訪問看護…2、訪問介護…4、小規模多機能型居宅介護…1、居宅介護支援…7、地域包括支援センター…2、介護予防センター（市委託事業）…4

## ❖法人の理念・経営方針

経営基本方針（2011年度）

1. 経営基盤の安定化を図ること
2. サービスの質の向上を図ること
3. 人材育成、適切な人事・労務管理を行うこと
4. CSR（企業の社会的責任）経営を徹底すること
5. ステークホルダー（利害関係先）との連携・協働を図ること
6. 組織統治（ガバナンス）を確立すること

## ❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

①定款記載の有無：記載していない

②事業報告・計画への記載：記載していない

## ❖取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

手稲溪仁会デイサービス

【施設種別及び利用定員】

指定通所介護事業 一般型 65名

## ❖活動内容

◇活動開始年：平成21年10月

◇活動の対象者：

地域の通所サービス従事者（通所介護、通所リハビリテーション、小規模多機能型居宅介護支援）

◇活動の頻度・時間：

役員会 月1回、1回あたり2時間程度

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

平成21年10月、当法人が札幌市より受託している「札幌市手稲区介護予防センター」で「運動器機能向上に関する研修会」を企画した際に、研修内容がデイサービスやデイケアなど通所系サービスの職員向けであったことから、地域包括支援センターと協同し介護予防センターと通所サービスの合同研修会として開催した。

研修の準備等を手稲区内の通所サービス従業者に協力をいただいたことを機に他の通所サービス事業所との交友が深まり、「研修ができない」「パート職員が多く時間が作れない」「離職率が高い」など、多くの事業所が抱える課題、実情を共有することができた。そこで、地域における通所サービスの質の向上を図る過程で、これらの課題を克服することが重要と考え、「通所サービス従業者が働き甲斐を持ち、お互いを高めあう関係を築ける地域にしたい」と当連絡会を設立するにいたった。

## ◆実施内容

### （1）研修会

平成22年3月の第1回より、平成23年5月の第3回まで計3回の研修を実施、研修内容は第1回のアンケート結果で要望が多かった「運動・レク関連」が2回、「認知症ケア」が1回となっている。対象者は手稲区内の通所サービス従事者で今までで述べ250名の職員が参加。

### （2）団体設立

平成23年5月、地域の通所サービス間のネットワーク構築と質の向上、従事者の働き甲斐の創出を目的に「手稲区通所サービス連絡会」を設立した。当連絡会の活動内容を①研修会（勉強会、事例検討）②合同レクリエーション活動③地域貢献活動（ボランティア活動）④職員交流などとしている。

平成23年8月現在、団体会員（賛助会員含む）17団体（事業所）が加盟。

### （3）役員会

月に1度、定例の役員会を開催。会長、副会長、理事、監査など13名を各事業所の管理者、生活相談員、介護職員など幅の広い立場の職員で構成している。役員会では業務上の悩みや疑問、意見などを共有する場ともなっている。

(4) 今後の予定

今後、介護保険制度下ではなかなか出来ない、通所サービスの利用者を対象とした小旅行やプロ野球観戦ツアーなどをボランティア活動として実施予定。(平成23年9月予定)

また、通所サービスで作った製作物の合同作品展、合同レクリエーションなどを予定。

◆活動効果 (利用者や職員、地域などの反応、影響)

(1) ネットワーク構築

活動を共にする機会が増えたことで他事業所間の交流が進み、悩みや疑問、不満などを共有することが多くなり、より身近な関係となることができた。このことにより自事業所の長所、短所、環境などを客観的な視点でみる事が出来るようになり、業務改善や新たな方向性、可能性を見出すことが出来たり、他事業所から刺激を受けることで業務に対する意欲の向上が見られるなど「お互いを高めあう関係」としてもいい効果が見られた。

(2) 学習機会の創出

小規模の通所サービス事業所や人員不足の事業所では、なかなか研修に行く機会を持ってないことが多く、地域主体の通所サービス従事者向けの研修会の開催は、貴重な学習の機会として評判がよかった。

(3) 個人のニーズから地域のニーズへ

通常の業務では利用者、家族など個人単位での

業務を行っているが、この連絡会の活動を通し、地域で起こる虐待や困難事例、重度の認知症患者の増加など、地域単位でのニーズに目を向けることができ、事業所の質を向上させることに使命感や義務感を感じ、新たなイノベーションとして地域主体の活動の意義を考えることができた。

◆今後の展開

今後、在宅サービスにおける通所系サービスの役割を色々な角度から検証し、サービスの質を高められるよう、通所サービス関係者が必要と感じる研修会や事例検討会などを継続して行っていく。

また、通所サービス従事者が働き甲斐をもち、専門職としての意識や自覚を持ってもらう切っ掛けとなるような活動として、インフォーマル活動(作品展、利用者を対象とした旅行、ボランティア活動など)を積極的に行い、介護保険制度の枠を超えた利用者本位の取り組みへのアプローチも行っていきたい。

◆主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
研修事業費(年間)	571,000円	入会金	105,000円
運営費	25,000円	助成金	543,000円
予備費	32,000円		
ボランティア事業費	20,000円		
<合計>	648,000円	<合計>	648,000円

- ・ 取り組みに係わった職員数 13名
- ※ 他法人の職員も合わせて (職種等：管理者、生活相談員、介護職員)
- ・ 取り組みを実施している施設の事業規模 (平成22年度決算の事業活動収入) 146,693千円
- ※ 法人全体の事業規模(同上) 4,632,079千円



実演を交えた熱のこもった研修会



団体設立総会の風景

# 「Community, Communication, Contribution」地域の方と会話・コミュニケーションをとり、地域に貢献する「3C活動」

## 取り組み内容のポイント

当法人では地域の方々とともに地域の活性化に取り組むため、地域貢献と地域交流を実践している。そのひとつとして施設の利用者、職員とこれからの社会を担う子どもたちとのつながりを深める「3C活動」を実施し、今後の成果を期待するものである。

茨城県

社会福祉法人

芳香会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL：0280-97-1027 FAX：0280-97-1112

## ❖法人設立年

1970年

## ❖法人実施事業

- ①経営施設数合計：9施設  
②経営施設・事業【種別毎の数】：  
養護老人ホーム…1、特別養護老人ホーム…1、  
保育所…2、障害者支援施設…3、重症心身障  
害児施設…1、老人保健施設…1  
在宅事業（高齢・障害）、共同生活介護…2、  
共同生活援助…1、認知症対応型共同生活介護  
…1、地域生活定着支援センター（県委託）…  
1、芳香会社会福祉研究所…1

## ❖法人の理念・経営方針

福祉大家（その道に優れた人）

【福祉大家】とは 芳香会初代の理事長が理想とし、  
目標とした言葉でした。その信念を实践すべく、  
それぞれの事業内容の充実をはかることに邁進す  
る。

芳香会の諸活動の基本的な姿勢と全職員の精神的  
支柱としての基本方針

1. 高齢・障害児・者・児童を対象とした福祉事  
業の展開  
それぞれの福祉サービスの提供者とし、プロ精  
神を培い常に真摯な姿勢を保ち、その基本となる  
哲学・科学技術を持って事業を展開する。
2. 地域とともに  
地域の中で信頼される事業所としての役割を担  
い、常に実践行動することをモットーとする。
3. 惻隠（そくいん）の情  
「ありがとう」の感謝の言葉、「はい」の素直な  
言葉、「ご苦労さま」のねぎらいの言葉等、相手  
の気持ちを思い測る心を常に持ち続ける。

## ❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無：記載していない  
②事業報告・計画への記載：記載している

## ❖取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

青嵐荘路のとう舎

【施設種別及び利用定員】

障害者支援施設

施設入所支援40名 生活介護 60名

## ❖活動内容

- ◇活動開始年：2011年6月  
◇活動の対象者：  
地域の子供会、中学生、保護者、施設の利用者  
◇活動の頻度・時間：  
年2回、1回あたり1時間30分

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人では地域貢献と地域交流による地域活性化を目指した活動を展開してきた。地域貢献活動では資源回収や環境美化活動を行い、さらに資源回収により得られた収益を環境美化活動や支援活動に還元している。地域交流活動では法人職員や利用者と地域住民や地元企業、学校などとの連携と交流を深める場となるよう環境美化活動への参加呼びかけや、地元中学校の文化祭で利用者の作品展示を行っている。

昨年度は当施設の設備を利用した天体観測会を実施し、地域の子ども達や保護者が一緒に参加し交流を深めるなど、新たなつながりの形ができ始めている。しかしながら少子化の影響もあり、地区に2つ存在していた子供会は1つとなるなどの課題も地域には存在している。

これからの地域社会を担う子どもたちとのつながりを深めること、利用者も地域住民として地域とのつながりをもつことを目指し、地域活性化に向けた活動として、地域の方と会話・コミュニケーションをとり、地域に貢献する「3C活動」の実施に至った。

## ◆実施内容

地域に根ざした施設作りを目標に、以前から施設行事等でお付き合いのある近隣子供会に協力要請を行い、また今回新たな試みとして、中学生に対する福祉への啓発の意味合いも含め、近隣中学校2校を訪問し協力を仰いだ。

活動当日は、参加者を3グループに分けて施設周辺の除草・清掃作業を行った。子供会（小学生）の参加者を中心に構成したグループでは、鎌・草刈機などの刃物の扱いは危険であることから、職員・保護者が刈った草・木やゴミ拾いを中心に行ってもらった。中学生のボランティアが参加したグループでも、職員・保護者が刈った草・ゴミを拾いや、施設利用者との交流を中心に行ってもらった。活動自体は約1時間で終了し、最後にみんなで記念撮影を行い、参加されたボランティアの方には、施設利用者が育てた花を感謝の気持ちを込めて《ありがとうフラワー》としてお渡しした。

## ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

この活動は利用者にとって普段接する機会が少ない地域の子どもたちや保護者との交流の場となるとともに、「自分たちの手で」活動することにより地域貢献活動を「実感する」機会となった。今後さらに活動を継続することで地域住民としての意識と役割をもつことが期待できる。

子供会からは昨年度の天体観測会に参加した児童もみられ、今後の継続した活動につながることが期待される。また活動中、自然の中で遊ぶ姿や集めた草の量を競い合う様子がみられたことから、普段の遊びや生活の中で環境への関心をもつ機会を提供することができた。

中学生は終始控えめな様子で活動中の大きな変化は見られなかったが、後日教頭先生からの「障害者施設を理解するいい機会になった」という言葉からも、福祉への啓発という意味でも効果があったことがわかる。

また保護者と当施設の利用者や職員が接する機会はこれまでほとんどなく、この活動が知り合うよい機会となった。地域の方からも「除草のおかげで道が見やすくなった」「道が通りやすくなった」という声が聞かれ、この活動の結果周辺環境の整備への貢献がみられたといえる。



利用者とともに木の伐採作業



子どもたちの熱心な作業風景



最後にみんなで「お疲れ様でした」



子どもたちも大人顔負けに頑張りました

## ◆今後の展開

以上のことから「3C活動」が地域の子どもと利用者を中心として、交流と貢献の機会となり、活動を継続することで地域の活性化へとつながる可能性をもつことを確認できたといえる。

今後は当法人施設が地域に根ざした施設となることを目指し、地域住民と利用者、職員の交流をさらに深め、地域の方が気軽に当法人施設とかわれるよう、また利用者や職員が地域の活動へ参加しともに取り組めるよう、「3C活動」を発展させながら展開していきたい。

## ◆主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
備品代	14,945円	法人負担	18,925円
飲み物代	3,980円		
<合計>	18,925円	<合計>	18,925円

- ・取り組みに係わった職員数 13名  
(職種等：施設長 ・生活支援員)
  - ・取り組みを実施している施設の事業規模  
(平成22年度決算の事業活動収入) 286,248千円
- ※法人全体の事業規模(同上) 2,849,192千円

# ご利用者と地域住民の安全安心を願って～地元自治連合会と「災害時における協力体制の協定書」を締結～

## 取り組み内容のポイント

地震などの被災時において利用者の安全を確保し事業を継続することは福祉施設の使命ですが、地域の被災住民（要援護者）の救済も積極的に行えるよう 地元自治会との間で防災協定を締結した。

奈良県

社会福祉法人

正和会

〒637-0077 奈良県五條市大沢町5-25

TEL：0747-24-4455 FAX：0747-23-6226

### ❖法人設立年

平成5年

### ❖法人実施事業

①経営施設数合計：3施設

②経営施設・事業【種別毎の数】：

特別養護老人ホーム…1、通所介護…1、ケアハウス…1、認知症対応型通所介護事業所…1、老人保健施設…1、通所リハビリテーション事業所…1、訪問介護…1、居宅介護支援…2、認知症対応型共同生活介護事業所…1

### ❖法人の理念・経営方針

理念…われわれ正和会は地域における最高の福祉の充実を目指し日々精進することを旨とする  
方針…われわれ正和会は単なるサービス業として受け止めるのではなく  
福祉という崇高なる理念に基づき情報も含むあらゆるサービスの提供改善に努めます

### ❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

①定款記載の有無：記載していない

②事業報告・計画への記載：記載している

### ❖活動内容

◇活動開始年：平成22年12月5日

◇活動の対象者：

近隣にお住まいの要援護者、地元自治会

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人の地震対策マニュアルは平成7年の阪神淡路大震災を教訓として作成していたが内容は簡単なものだった。非常食は平成11年頃より備蓄していたが平成16年に見直しを行い、保管場所を建家毎に分散、3日間の備蓄量とした。しかし平成19年の新潟県中越沖地震での福祉施設の被災状況は施設職員にとって大変考えさせられるものだった。多くの命を預かる施設としてもっと解りやすいマニュアルを作り職員の統制がとれるようにしなくてはと平成21年、全国経営協編集のガイドラインを参考に「地震対策マニュアル」をまとめた。その中で感じたことは地域住民の安全のことだった。大規模災害が発生した場合施設も含め地域全体が被災する。このような時こそ地域住民と力を合わせ被災者の救援に努めなければいけないと考え、牧野地区自治連合会長様と相談、協定書の締結に至った。

## ◆実施内容

協定書は大規模災害が発生した場合 相互に連携し被災者の救済、安全安心を確保する為「相互防災体制」を確立することを目的とした。内容は災害が発生した場合、住民と共に被災者の救援に努めること、一時避難所として施設の一部を提供すること、定期的に合同防災訓練を実施すること、牧野地区自主防災会と情報交換をすること等を盛り込んだ。協定を締結した平成22年12月5日は牧野地区防災対策講演会の日であり、牧野公民館において多数の参加者の見守る中、牧野地区連合自治会長様と当法人理事長との調印式が行われた。地域に支えられ育てて頂いた施設として、地域住民のお役に立てることが大変うれしく誇りに思った。

## ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

協定の締結後具体的な進展のない中3月11日の「東日本大震災」が起こった。未曾有の大惨事が報道される中、職員はやはり自分の勤務する施設のことを重ね合わせ思いを巡らせていた。3日間は自助努力で持ちこたえることができたなら、

その後は行政の支援が機能するのではという見通しは甘いのだろうか。山間部で津波の心配はないものの施設のすぐそばを活断層が通っている。多くの命を預かっている施設としてマニュアルは万全だろうか。牧野地区自主防災会でも同様の思いで、地震対応マニュアルの作成に協力して欲しい、食料の備蓄について協力してほしいとの依頼があった。また4月当厨房内で食器の全面入替を行ったが古い食器を破棄せず地区の防災倉庫で保管し緊急時炊き出し用の食器として使用することにした。このように少しずつだが着実に動き始めている。

### ◆今後の展開

かねてより東海、南海地域を震源とする大規模地震の発生が懸念されている。この地域で発生した場合かなりの被害が予想される。耐震構造の施設は地域の要援護者（高齢者）の一時避難場所となるだろうが対応できるのだろうか。備蓄品は充分だろうか。今後は施設の中だけでなく一時避難者のお世話も想定した訓練も必要となるだろう。考えれば課題はたくさんある。今後は定期的な合

同訓練を実施する中でこれらの課題を双方協議しながら解決していきたいと考えている。

### ◆主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数 7名  
（職種等：管理者、総務部、相談員、事務員）
- ※法人全体の事業規模  
（平成22年度決算の事業活動収入） 1,638,184千円



牧野地区防災講演会会場



協定調印式の様子



（左）牧野地区自治連合会長様（右）当法人飯田理事長

# 高齢者の暮らしを守る「食と見守りネットワーク」の実践～公と民の協働で地域の福祉力を高める～

## 取り組み内容のポイント

過疎の進む山間地域で、「食」にかかわる公的サービス（市配食サービス等）や民間の弁当配送業者、地元商店等が協働して、「食」を通じた見守りネットワークを構築する。

広島県

社会福祉法人

不動産

〒729-6143 広島県庄原市尾引町263番地2

TEL：0824-74-0530 FAX：0824-74-1633

## 法人設立年

昭和39年

## 法人実施事業

①経営施設数合計：17施設

②経営施設・事業【種別毎の数】：

特別養護老人ホーム…1、養護老人ホーム…1、短期入所…1、居宅介護支援…3、通所介護…3、訪問入浴…1、訪問介護（障害福祉サービス：居宅介護等含む）…1、訪問看護ステーション…1、認知症対応型共同生活介護…1、小規模多機能居宅介護事業所…1、老人介護支援センター…1、認可外保育施設…1、訪問給食（配食）事業…1

## 法人の理念・経営方針

社会福祉法人不動産（寿園・相扶園）は、昭和39年に妙延寺（浄土真宗）の記念事業として地域のみなさまに支えられて生まれた法人です。当法人の開設以来のモットーは「和顔愛語（わけんあいご）」です。緑豊かな環境の中で、和やかな笑顔とあたたかい言葉を交わしあい、相互に扶（たす）けあい敬愛しながら、ご利用者が安らぎと喜びを感じていただける文化生活の場を提供することを目的としています。

居宅サービスは、あの施設があればこそ、地域や家庭で皆が頑張っていけると、頼りにしていただけの地域福祉の拠点を目指しています。

## 取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

①定款記載の有無：記載していない

②事業報告・計画への記載：記載している

## 取り組みを実施している施設の概要

### 施設名

庄原市老人介護支援センター相扶園 他

### 施設種別及び利用定員

老人介護支援センター

## 活動内容

◇活動開始年：平成23年6月

◇活動の対象者：地域の高齢者、住民を対象

◇活動の頻度・時間：

・事務局会 月2～3回 ネットワーク全体の

・連絡会議 年2回 啓発イベント 年1回

※計画中の内容を含む

## 活動実施の背景、実施にいたった理由

過疎の進む当地域において、高齢者の一人暮らしや高齢者世帯が増加している。介護は必要でなくても、買物や生活支援に困る世帯も多い。当法人は市委託の給食サービスを15年以上行っているが、高齢者の地域での暮らしを支えるために、見守りや生活支援の必要性は非常に大きいと感じていた。そこで、食を支える関係機関・事業者のネットワーク化を図り、地域の介護力・福祉力の向上を図る取り組みを始める取り組みを開始した。

### ■庄原市の現状

位置・面積 広島県北部の山間地域 面積 1246.60km<sup>2</sup>

人口等 人口40,019名 高齢化率37.4%

世帯数15,958世帯

（過疎化の現状 H2年からH17年の間、人口14.7%減少）

### ■※ネットワークの実践地域

（庄原地域 人口19,173名 高齢化率33.4% 同市の中心地域）

※平成23年8月末現在 住民基本台帳登録人口

## 実施内容

- 1) 事務局は当会が中心となり、地域包括支援センター（市直営）、JA（給食サービス実施）の三者で共同事務局の体制で事業を運営。
- 2) 食にかかわる事業者を対象としたネットワーク全体会の開催  
・食にかかわる事業者（弁当配送業者・コンビニエンスストア・地元商店・地元ショッピングセンター等の関係者）が参加し、地域の現状やお互いの現状について情報交換を行う。地域において、このような会合は初めての取り組みであり、各参加者から多くの意見が寄せられた。
- 3) 食と見守りを促進するためのイベントの開催  
地元ショッピングセンターのイベントと併せて実施予定
- 4) ネットワーク加入事業者【高齢者にもやさしいお店】の認証と情報の公表  
配送車用 車両用プレート・店舗用プレート・従業員用

バッチ ※作成中

5) 暮らしを支える資源マップ〈高齢者用〉、事業者用パンフレットの作成と配布

- ・資源マップには、配送等を含め「高齢者にもやさしいお店」に登録した事業者の情報を掲載。
- ・事業者パンフレットには、買物に来られた高齢者への対応方法や認知症への基本的理解と対応等をQ&Aでまとめた。

6) その他

広島県地域支え合い体制作り事業（地域ケア体制構築モデル事業）の補助を受け実施する。

補助金を受けるだけでなく、県のワーキング会議に参画し県全体の地域ケアの実践モデルの検討・実践を行うと同時に、県高齢者対策総合推進会議のメンバーとして広く県内の高齢者対策の検討を行っている。

◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

今年度6月からの事業着手で現在、検討・準備中の内容も多いが、関係者と連携しながら着実な取り組みを重ねている。活動を重ねる中で、食を支えるネットワークによりフォーマル・インフォーマルサービスの連携を図りニーズ発見、見守り力の向上を図る効果は非常に大きいと感じている。

弁当配送業者、コンビニエンスストアや地元商店の多くに協力を得て、連絡会議を開催し、グループ協議等を通じて、意見交換ができたことも好評を得ている。



食事（弁当）の配送時の様子。会話も食事も楽しみです

◆今後の展開

当地域のある食にかかわる多くの事業者にかかわっていただき、ネットワークの充実を図り、関係機関が連携しながら、認知症の方を支えるSOSネットワークや虐待防止ネットワークへの発展を図っていくとともに、地元商店等の活性化や、高齢者や障害を持つ人の異変時における連絡体制等の機能を強化し、医療・介護・予防の領域にまたがる食ニーズへの対応力を高めていきたい。

今後も社会福祉法人として、介護ニーズだけでなく、生活支援や地域のつながりを強化する取り組みを積極的に実践したい。

◆主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
賃金	154,000円	広島県地域支え合い体制作り事業（地域ケア体制構築モデル事業）の補助と法人の負担により実施。	2,267,000円
会議費	126,000円		
消耗品	555,000円		
印刷製本費	300,000円		
備品費用	500,000円		
イベント費用	522,000円		
その他	110,000円		
<合計>	2,267,000円	<合計>	2,267,000円

・取り組みに係わった職員数（当法人内）4名

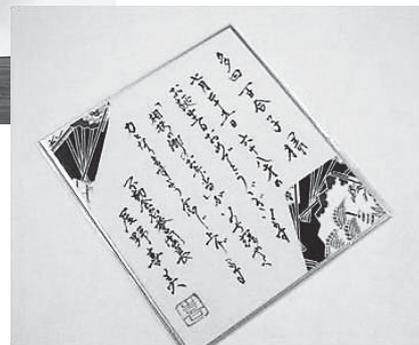
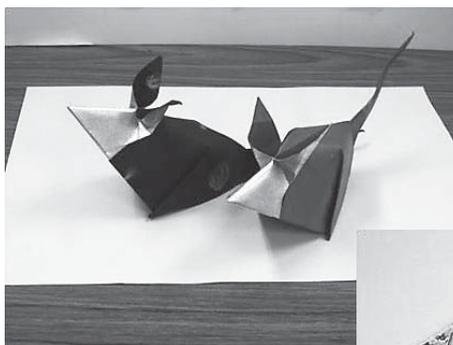
※市役所3名 JA3名の事務局員

（職種等：ケアマネジャー・ソーシャルワーカー・管理栄養士等老人介護支援センタースタッフ）

・取り組みを実施している施設の事業規模

（平成22年度決算の事業活動収入）30,000千円

※法人全体の事業規模（同上）900,000千円



ご利用者の誕生日には一人ひとり手書きの色紙がお弁当に添えられます。（お正月には干支の折紙）



**地域機能の**

---

**縮小への対応**

---

# 地域貢献及び地域交流を積極的に図る

## 取り組み内容のポイント

高齢者の閉じこもり防止や高齢者同士の交流を図ることなどを目的として、当施設内にある浴場を開放して、地域住民の皆さまに福祉入浴サービスを提供している。

北海道

社会福祉法人

溪仁会

〒072-0015 北海道美唄市東4条南5丁目1-4  
TEL：0126-66-2525 FAX：0126-66-2020

### ❖法人設立年

1982年

### ❖法人実施事業

①経営施設数合計：8施設

②経営施設・事業：

特別養護老人ホーム…3、老人保健施設…4、ケアハウス…1、通所介護…9、通所リハビリテーション…4、グループホーム…2、訪問看護…2、訪問介護…4、小規模多機能型居宅介護…1、居宅介護支援…7、地域包括支援センター…2、介護予防センター（市委託事業）4

### ❖法人の理念・経営方針

経営基本方針（2011年度）

1. 経営基盤の安定化を図ること
2. サービスの質の向上を図ること
3. 人材育成、適切な人事・労務管理を行うこと
4. CSR（企業の社会的責任）経営を徹底すること
5. ステークホルダー（利害関係先）との連携・協働を図ること
6. 組織統治（ガバナンス）を確立すること

### ❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

①定款記載の有無：記載していない

②事業報告・計画への記載：記載している

### ❖取り組みを実施している施設の概要

#### 【施設名】

美唄市東地区生活支援センターすまいる

#### 【施設種別及び利用定員】

デイサービスセンターすまいる 一般型 30名

ホームヘルパーステーションすまいる

居宅介護支援事業所すまいる

### ❖活動内容

◇活動開始年：平成11年5月

◇活動の対象者：

美唄市内に居住する概ね65歳以上の方や障がいのある方

◇活動の頻度・時間：

毎週月・水・金曜日の午後4時から午後6時まで

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

介護保険法が施行される以前の美唄市は、在宅サービスの拠点として、国道12号線で東西に分けた西側は「総合福祉センター」、東側は「美唄市東地区生活支援センターすまいる」をそれぞれ置き、その中で東側に住む地域住民の皆さまに当施設を開放して何かできないかとの市職員の思いから、地域資源を有効に活用し、高齢者の交流の場を提供することを目的として、平成11年5月に美唄市主体で福祉入浴事業が始まった。

その後、美唄市の情勢により、介護予防事業に重点を置くことが求められることになり、美唄市が福祉入浴事業から撤退しましたが、地域住民の強い要請を受け、平成17年5月から社会福祉法人南静会（現在の溪仁会）が独自事業として引き継いで、現在も事業運営を行っている。

## ◆実施内容

【入浴料】 1回300円

【浴場】 男性浴場と女性浴場の2つを設置

【利用状況】

(年間)

	20年度	21年度	22年度
利用日数	151日	155日	154日
男性利用者	773人	900人	786人
女性利用者	2,624人	2,452人	2,095人
合計	3,397人	3,352人	2,881人

## ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

福祉入浴を利用する高齢者にとっては、自宅でお湯を溜める前の準備や後片付けが身体的に困難な方が多く、独居世帯であれば、一人しか入らないのに毎日お湯を溜めることがもったいないとの思いもあり、安全で安心できるこの福祉入浴サービスを利用する高齢者が多い。

また、お互い近くに住んでいるものの、普段顔を会わせる機会がない人とお話しができるなど交流の場として活用され

ている方もおり、評判は上々。

さらに、福祉入浴サービスを通じて当職員との交流が深まり、一昨年度からは毎年、当職員が近隣町内会の催しに招待されるなど、地域住民とのつながりが保たれている。

## ◆今後の展開

この事業を開始して13年目を迎え、年々利用者数が減少しており、一昨年度には年間累計人数が3,000人を下回る結果でありました。それに伴い、原油高騰などで事業運営についても厳しい状況がありますが、町内会長をはじめ地域住民の皆さまからは、福祉入浴を継続してほしいとの要望を多くいただいているところである。

このことから当施設といたしましては、チラシ

を作成して近隣地域に配布するなど施設のPRを続けており、今後も利用者確保に努めながら、地域との支え合い、一人ひとりとのつながりを大切にこの活動を継続していきたい。

## ◆主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
人件費	1,275,890円	事業収入	866,100円
事務費	411,458円		
事業費	1,274,701円		
<合計>	2,962,049円	<合計>	866,100円

- ・ 取り組みに係わった職員数 1名  
(職種等：福祉入浴担当者)
  - ・ 取り組みを実施している施設の事業規模  
(平成22年度決算の事業活動収入) 162,949千円
- ※法人全体の事業規模(同上) 4,632,079千円



地域住民に親しまれている「すまいる」



券売機で入浴券を購入している常連客



男性浴場で一人満喫している常連客



清潔感たっぷりの女性浴場

# 天然温泉を活用した足湯処（アンテナショップ）の運営

## 取り組み内容のポイント

中心市街地の空き店舗を改装して、地域の高齢者向けの「天然温泉足湯処」を開設し、天然温泉の足湯浴や健康相談、介護相談、貸ホール等を運営している。法人設立20周年を記念し、地域貢献事業として高齢者の拠り所を提供している。

埼玉県

社会福祉法人

熊谷福祉会

〒360-0853 埼玉県熊谷市玉井1145番地1

TEL：048-533-0003 FAX：048-533-0120

## ❖法人設立年

昭和63年7月6日

## ❖法人実施事業

①経営施設数合計：13施設

②経営施設・事業【種別毎の数】：

特別養護老人ホーム…1、老人保健施設…1、  
ケアハウス…1、通所リハビリ…1、通所介護  
…4、居宅事務所…2、訪問介護…1、保育所  
…1、足湯処…1

## ❖法人の理念・経営方針

我々のケアサービス、それは自分や家族にして  
欲しいものでありたい

- ・ご利用者の心の理解に務めます。
- ・ご利用者の心を開くように務めます。
- ・ご利用者の心を豊かにするように務めます。

## ❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無：記載していない
- ②事業報告・計画への記載：記載している

## ❖取り組みを実施している施設の概要

### 【施設名】

「はなぶさ苑天然温泉足湯処仲町」

### 【施設種別及び利用定員】

第1種、第2種社会福祉事業以外  
利用定員：50名程度／1日

## ❖活動内容

- ◇活動開始年：平成19年7月19日
- ◇活動の対象者：地域の高齢者
- ◇活動の頻度・時間：月間26日程度 1日7時間

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

社会福祉法人熊谷福祉会は、平成元年に「特別養護老人ホームはなぶさ苑」を開設以来、地域の方々から愛着を込めて「はなぶさ苑」と呼ばれている。以後、地域で初めての民営の特養は絶大な支持を頂き、その後順次デイサービスや訪問介護・配食サービス等を開始した。

平成11年「介護老人保健施設はなぶさ」を開設、平成16年には施設の敷地内から市内初の温泉掘削に成功して良質な源泉に恵まれ、翌17年5月には県北最大規模の「はなぶさ温泉通所リハビリセンター」を開設。以降「はなぶさ温泉デイサービスセンター」と併せ『温泉とりハビリのはなぶさ苑』が市内外に広く浸透した。現在は、ケアハウスや老健施設と併せ一日に500名近くのお客様に掛流し天然温泉にご入浴頂いている。

平成19年7月、法人設立20周年を迎えるにあたり、ご愛顧下さり育てて頂いた地域への恩返しとして、市内中心街の一角に「はなぶさ苑天然温泉足湯処仲町」を開設した。

## ◆実施内容

施設は中心街の空店舗を購入して改修し、内装を檜の板張りとした1階には天然温泉足湯処、将棋や囲碁が出来る畳敷き談話コーナー、健康測定器具、相談カウンターを設置、2階は約35畳の貸ホールとし、隣地に駐車場も4台分を設置した。営業時間は午前10時から午後5時、定休日は毎週水曜。スタッフにはベテランの女性職員2名を配置、内1名が3年目にケアマネ資格を取得し、様々な相談に対応している。利用料金は市内の高齢者は全て無料とし、2階の貸ホールは午前又は午後の時間帯で各々300円としている。

## ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

利用客数は初年度約4,200名（80名／週）から順調に増加し、2年目約8,200名（160名／週）、3年目約9,800名（190名／週）、4年目約10,500名（200名／週）となり、直近では週間利用客も250名前後に達し、年間総利用客数は12,000名前

後が見込まれている。

主な客層は、60～80歳代の女性が8割以上を占め、残りを40～50歳代の女性客と男性のお客様がそれぞれ1割程度を占めている。利用客の平均滞在時間は1時間程度で、約30分間の足湯浴の他、①地域の話、②お客様同士の趣味や余暇の話、③健康相談、④家族の話、⑤日常生活の話、⑥介護に関する相談などが行われており、大半が温泉利用と相談相手や話し相手を求めて来店されている。2階の貸しフロアは40～70歳代の各種サークルや複数のダンスサークルがご利用され、練習の前後に足湯を利用頂いている。

### ◆今後の展開

利用客の増加に連れて相談件数も増加傾向となり、特にスタッフがケアマネ資格を取得すると、様々な相談にも専門的に対応出来るようになった。昨今では介護に関する相談も毎週記録され、じっくりと相談できる環境と相乗し、毎月1～3件程度の利用契約に繋がっている。

経営戦術の上では中心街のアンテナショップ&

温泉トリハビリのサテライトショップであるが、現場ケアマネの心構え「真摯に耳を傾ける。売込まず機は逸せず。中立を保ち臆せず。即日処理を旨とする。」を机上に明記して、常にお客様本位の地域の高齢者総合相談窓口を実践し、地域と共に歩む社会福祉法人の地域貢献の一環として、今後も足湯処を積極的に展開して参りたいと考えている。

### ◆主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
車両費	200,000円	法人からの負担金	1,200,000円
水光熱費	500,000円		
消耗品費	200,000円		
駐車場代	300,000円		
<合計>	1,200,000円	<合計>	1,200,000円

・取り組みに係わった職員数 常勤2名/支援執務0.5名  
(職種等：介護職員(ケアマネ資格者1、パート1、他1名))

※法人全体の事業規模

(平成22年度決算の事業活動収入) 約2,300,000千円



地域のお年寄りの語らい



健康相談や介護相談



2Fホールはいつも盛況



交差点角の落ち着いた外観

# なでしこ暮楽部 有野台（高齢者等相談等事業）

## 取り組み内容のポイント

高齢化率が30%を越えた団地において、集合住宅の一室に「相談ルーム」を設け、地域住民の医療・福祉における相談対応を行い、「無縁社会」に一石を投じる。また、高齢者の孤独死の抑制及び障害者や子育て支援等の拠点づくりの基地としての役割を果たす。

兵庫県

社会福祉法人

恩賜財団 済生会支部兵庫県済生会

〒651-1302 兵庫県神戸市北区藤原台中町5丁目1番1号  
TEL：078-987-2222 FAX：078-987-2221

## ❖法人設立年

明治44年5月30日

## ❖法人実施事業

- ①経営施設数合計：3施設  
②経営施設・事業【種別毎の数】：  
病院…1、特別養護老人ホーム…1、地域密着型小規模特別養護老人ホーム…1、介護保険事業…8、重症心身障害児（者）通園事業…1

## ❖法人の理念・経営方針

理念

生を濟う（いのちをすくう）

経営方針

社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実・効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上及び事業経営の透明性の確保を図るものとする。

## ❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無：記載していない  
②事業報告・計画への記載：記載している

## ❖取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

特別養護老人ホーム ふじの里

【施設種別及び利用定員】

特別養護老人ホーム 入所定員：75名

## ❖活動内容

- ◇活動開始年：2011年4月  
◇活動の対象者：地域住民  
◇活動の頻度・時間：  
月曜日～金曜日 9：00～17：00

## ◆活動実施の背景、実施にいたった理由

施設が受託している地域包括支援センター管轄区域内の「有野団地」は昭和40年代に開発されたURの団地で、高齢化率は、神戸市全体の22.5%より高く、独居高齢者や高齢者のみの世帯も多く、地域との繋がりも少ない実態がある。地域で活発に実施しているふれあい喫茶や昼食会、施設での交流会や行事に参加している高齢者はいつも同じ顔ぶれであり、本当に支援の必要な高齢者はそういう場には参加していないのが現状である。また、法人の創立理念である生活困窮者支援を積極的に展開するためにも、ニーズの掘り起こしが必要であり、同じ法人の病院と施設が共同で医療・福祉の推進を図り、地域の「安心」と「交流の場」を提供することと、地域で住民同士が助け合えるよう「新たな地域見守りの仕組み作り」を構築したいと考えた。

## ◆実施内容

独立行政法人都市再生機構（UR）西日本支社長、神戸市長、北区社会福祉協議会常務理事、兵庫県済生会業務担当理事の「4者連携」の元、平成23年3月2日に確認書を取り交わし、UR所有の有野団地の住居を活用し「高齢者等相談ルーム」を4月1日に開設した。月曜日から金曜日の午前9時から午後5時まで、2名（社会福祉士1名・見守り隊1名）を配置し、団地内の訪問、見守りを行い、相談室でも高齢者等の相談を受ける。神戸市や北区社会福祉協議会からのバックアップやアドバイスもある。法人の病院からは、毎月第1水曜日に病棟の看護師長、第3木曜日に医療連携室のMSW、施設からは毎週火曜日に介護支援専門員が相談室を訪れ、専門的な相談を受けている。この事業は、法人が昨年7月に社会貢献事業の一環として、URに空き住居の提供を要請し、実現した。UR西日本支社では初めての事業ということだが、趣旨に賛同し、市との連携協定も含め、いろいろと協力していただいている。

## ◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

高齢者に集まっていただく手段としては、単純に相談室で喫茶を開催すれば人は集まるが、私たちの活動の目的は、他者との関係が薄い人への関わりである。訪問をする中で閉じこもりがちな高齢者を発掘し、その人の知人や顔見知りを訪ね、つながりを探す地道な活動を続けており、4ヶ月経過した現在、高齢者が高齢者を見守る「自主見守りグループ」（1グループ約5～7名）が2組でき、月に1回「なでしこ暮楽部」で情報交換を行っている。

相談室を開設するにあたり、地域の自治会等に説明会を実施した。UR自治会は、高齢者等が身近に相談できる窓口ができるということで、自主的にパンフレットを配布して下さった。また、URから節電効果を含めてのグリーンカーテンのゴーヤセットが届くと、職員の手間を省こうと住民が自主的に植栽し、休業日の水やり当番を決めて、ゴーヤの生長を見守っている。相談者の中からは、ボランティアの希望も多くあり、顔合わせを含めた会合を開き、地域の輪が広がってきた。最近は電話相談や来室もあり、医療や介護、生活困窮等専門的な相談も増加している。

## ◆今後の展開

有野団地はURだけで73棟2140戸の住宅であり、全戸を訪問するのは大変な作業とは思いますが、まず足で対象者の情報を得る必要がある。また、相談件数は増加してきているが、地域に相談窓口として周知されるには至っていない。積極的に広報活動を行いながら、地域住民に必要とされ活用され

る窓口を目指し、新たなコミュニティー作りに挑戦していく。このモデル事業が各地の集合住宅に普及し、「無縁社会」ではなく「絆社会」につながっていくよう活動する。決して独りで誰にも気づかれずに人生の最後をとじることが無いよう、誰かとつながっている地域を目指す。

## ◆主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
人件費	4,400,000円	なし	0円
賃借料	376,000円		
その他諸経費	724,000円		
<合計>	5,500,000円	<合計>	0円

- ・取り組みに係わった職員数 4名  
（職種等：参与、社会福祉士、見守り隊、事務員）
  - ・取り組みを実施している施設の事業規模  
（平成22年度決算の事業活動収入） 1,017,584千円
- ※法人全体の事業規模（同上） 6,054,419千円



〈玄関側外観〉



〈相談ルーム〉



〈活動風景〉

# 『『地域に向けた公益的取り組み』事例』

---

## 応募要領

---

みなさまから  
地域に向けた  
公益的  
取り組み事例を  
募集します!



## 趣旨・募集テーマ

応募事例は『地域に向けた公益的取り組み事例集（実践事例集）』として作成の上、「第30回全国社会福祉施設経営者大会（以下、全国大会）」の参加者、及び関係団体（都道府県経営協事務局等）に配布を予定しております。

あわせて全国経営協のホームページ内の、会員・非会員を問わず閲覧することのできる情報ページに掲載させていただきます。

### ● 趣 旨 ●

社会福祉法人の使命を遂行するために、社会・地域における福祉の発展・充実に向けた様々な取り組みを募集します。地域に向けて、貴法人が実践されている様々な公共的・公益的取り組みをご紹介します。

### ● 応募方法 ●

6～8頁の応募用紙に必要事項をご記入のうえ、郵便、FAX、メールにて事務局までお送りください。電子メールでの応募をご希望の方には応募書式データをお送りいたしますので、その旨メールにてご送信ください

**(アドレス：koueki@shakyo.or.jp)**

※ 1事例ごとに、6～8頁の指定応募用紙を1セットご使用ください。

※掲載用関連写真（活動の様子など）を3枚程度添付してください。写真についてはFAXではなく、紙焼き（プリントアウト）した現物を応募用紙に同封いただくか、メールにデータを添付してお送りくださいますよう、お願い申し上げます。

## ● 基本テーマ ●

# 『地域に向けた公益的取り組み事例』

## ● 募集内容 ●

例えば、次のような事例をお寄せください。

### 「地域に視点をあてた事業展開」

- ・地域の福祉課題等の解決に向けた取り組み
- ・地域における子育てや介護の支援事業
- ・地域見守り活動
- ・施設や建物、設備の開放、イベントの開催(憩いの場提供、施設体験など)
- ・災害時対策、在宅高齢者や身障者緊急通報センターの運営
- ・地域の総合相談窓口として、多様な相談に応じる機能を持っている など

### 「地域における福祉の推進」

- ・勉強会、講習会、講演会(介護、子育て教室など)や行事活動
- ・学校教育への協力(登下校時の見守り運動など)
- ・交流会(ピアサポート事業など)
- ・ボランティア活動支援 など

### 「地域の社会的な援護を必要とする方への支援」

- ・高齢者、障害者、子ども等に関わる虐待や財産・権利侵害の予防や対応
- ・生活困窮者への生活支援 など

### 「地域他機関とのネットワーク活動」

- ・行政、医療、福祉等の関係機関・団体との連携の推進
- ・地域の複数社会福祉法人間での連携・協働によるセーフティネットの構築 など

### 「地域機能の縮小への対応」

- ・商店街の空きスペースでの事業展開
- ・公共施設等が撤退した人口減少地域における高齢者の生活支援 など

### 「その他」

- ・海外からの研修生の受け入れ、地域の外国人への支援・交流
- ・環境問題への配慮 など

☆上記の内容は、あくまでも取り組みの例です。貴法人で、地域に向けて実施した様々な取り組みをお寄せください。

☆過去の事例集で掲載・発表された事例と同種類の取り組みでも、応募することができます。

☆これまでに作成した公益的取り組みの実践事例集を、全国経営協ホームページ (<http://www.keieikyo.gr.jp/>) に掲載していますので、ご覧いただき応募に際してご参考ください。





# 応募要領

## ● 書式について ●

- ・ 人名など特殊な場合以外は、なるべく常用漢字・新仮名遣いを用い、本文は「である調」でお願いします。
- ・ 略語を使用する際は、初出箇所に正式名を記載し、カッコ内にその略語を挿入してください。

## ● 掲載用関連写真について ●

- ・ 6～8頁の応募用紙を使用し、参考資料として、事例の内容を具体的に説明する写真を添付してください。
- ・ 応募される取り組み内容のイメージカット（写真）を3枚程度、原稿（応募用紙）と併せてお送りください。事例集のページの都合上、掲載する写真の大きさや数は全体のレイアウトで調整させていただきますことをご了承ください。
- ・ 写真に顔や固有名詞が写っている場合、本人了承等の肖像権のご配慮をお願いします。個人が特定されないようこちらで加工が必要な場合は、その旨お申し付けください。
- ・ 応募される写真の返却については、応募用紙の『写真返却 要・不要』の欄への記入でお知らせください。
- ・ 写真を郵送で送付希望される場合、着払いで事務局までお送りいただくか、郵送用の封筒・切手を弊会より送付いたしますので、送付先（住所・TEL・法人名・担当者名）を明記の上、担当（福山）まで電子メール（koueki@shakyo.or.jp）、またはFAXでご連絡ください。

## ● デジタル画像の場合 ●

- ・ 応募フォーム並びにメールでデジタル画像のデータを送信いただく場合は、5MB未満の容量で送信ください。データ容量が5MBを超える場合は、別途、事務局までご相談ください。
- ・ データの容量が大きい、または保存媒体でお送りいただく場合、保存するメディアは、windowsフォーマットで、FD、CD-R、フラッシュメモリー（USB）にてお願いします。

## ● その他（応募上の留意点） ●

### 「記入方法について」

- ・ 本会より記載内容の確認を行わせていただく場合があります。連絡先については、応募者ならびに記入者とも必ずご記入ください。
- ・ 事例集のページ関係上、字数に限りがあります。応募用紙に項目毎の目安の字数がございますので、作成の際の参考にしてください。
- ・ 字数によっては、事務局にて調整させていただきます場合がありますので、ご了承ください。

## ● 応募後のスケジュール ●

### 「掲載事例の選考」

応募いただいた事例の中から、全国経営協調査研究委員会にて掲載事例を選出し、8月下旬頃に掲載のご連絡をさせていただく予定です。

### 「全国大会」

「実践事例集」については全国大会の参加者用資料として参加者に配布する予定です。

### 「ホームページ掲載について」

ご発表いただいた全作品は『全国経営協ホームページ』への掲載をいたします。これまでに作成した公益的取り組みの実践事例集を、全国経営協ホームページ (<http://www.keieikyo.gr.jp/>) に掲載していますので、ご参考ください。

● 締め切り ●

**8月22日(月) 必着**

〈ご応募・お問い合わせは、こちらまで〉



社会福祉法人 全国社会福祉協議会  
**全国社会福祉施設経営者協議会 事務局**

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

**TEL 03-3581-7819**

**FAX 03-3581-7928**

E-mail [koueki@shakyo.or.jp](mailto:koueki@shakyo.or.jp) (担当 福山、小林、瀬戸山)

**地域社会とともに歩む社会福祉法人をめざして**  
～社会福祉法人における地域貢献に向けた「1法人(施設)1実践」活動事例集～

(平成23年9月)

**全国社会福祉施設経営者協議会**

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル  
全国社会福祉協議会 法人振興部内

T E L 03-3581-7819

F A X 03-3581-7928

## 全国社会福祉施設経営者協議会

---

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル  
TEL : 03-3581-7819 FAX : 03-3581-7928

<http://www.keieikyo.gr.jp>